

# チームオレンジにつながる事例集

～チームオレンジの整備に向けて～

小さな一歩から少しずつ



©2014 大阪府もずやん

令和2年3月

大阪府福祉部高齢介護室介護支援課



## はじめに

- 令和元年6月に政府の「認知症施策推進関係閣僚会議」で「認知症施策推進大綱（以下、「大綱）」という。」がとりまとめられました。この大綱では、基本的な考え方として、「認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会を目指し、認知症の人や家族の視点を重視しながら、「共生」と「予防」を車の両輪として施策を推進していく」と示されました。

大綱では、この「共生」について、「認知症の人が、尊厳と希望を持って認知症とともに生きる、また、認知症があってもなくても同じ社会でともに生きる」と定義がされています。これは、「認知症の人が、できないことを様々な工夫で補いながら、できることを活かして希望や生きがいを持って暮らしていく」「認知症があってもなくても、同じ社会の一員として地域をとともに創っていく」ことであり、特に、「希望」という言葉が盛り込まれているように「認知症になっても希望を持って前を向いて暮らしていく」というメッセージが強く込められています。この考え方は、チームオレンジの取り組みを進める中でもとても大切ではないでしょうか。

- 国は、「地域において認知症の人や家族の困りごとの支援ニーズと認知症サポーターをつなげる仕組み」となるチームオレンジについて、「認知症の人や家族に対する生活面の早期からの支援等を図るとともに、認知症サポーターのさらなる活躍の場を整備する」としておられます。

大綱では、2025年までに全市町村でチームオレンジを整備すると掲げられています。この目標を達成するために、令和2年度から、地域支援事業実施要綱において「認知症サポーター活動促進・地域づくり推進事業」が位置付けられる等、計画的に整備していくこととしておられます。

- このような状況のなか、どのようにチームオレンジを作り、どう運営を進めていったらいいのか、悩んでいる市町村の方も多いのではないのでしょうか。

- この冊子は、(1)市町村の行政担当者、(2)認知症地域支援推進員、(3)コーディネーター（候補者）、(4)チームリーダー（候補者）を対象者に想定し、各市町村でのチームオレンジの整備や活動の参考となるよう、モデル市町の方々のご協力をいただき作成しました。

ここでは、まず、チームオレンジの中核を担うことが期待されていますコーディネーターの活動において心がけていただきたいことをまとめました。また、チームオレンジにつながるとされるモデル市町における活動事例について紹介しています。これらの活動事例を参考にいただき、チームオレンジの整備や活動にお役立てください。

## 目次

I. チームオレンジの構築を進めていくために	4
II. コーディネーター活動の理念	6
III. チームオレンジにつながる事例	
事例の構成について	10
【豊能町】 日常生活の延長線上にある、通いの場所としての認知症カフェ	11
【池田市】 キャラバン・メイト連絡会発足からの取り組み	16
【高槻市】 認知症サポーターステップアップ講座の企画 ～大阪府認知症介護指導者との連携～	20
【門真市】 ゆめ伴（とも）プロジェクト in 門真 ～認知症になっても輝けるまちをめざして～	26
【八尾市】 地域展開型認知症サポーター養成講座からのつながりと見守り ～みんなでつなげようオレンジの輪～	35
【河内長野市】 認知症パートナーの養成とチームオレンジの立ち上げ	41
【阪南市】 マスターズカフェ	49
IV. 今後の展開に向けて	54

三島高齢者福祉圏

P.20～ 高槻市

「認知症サポーターステップアップ講座の企画  
～大阪府認知症介護指導者との連携～」

キーワード 大阪府認知症介護指導者との連携

認知症パートナー 認知症サポーターステップアップ講座

人口：351,642人 面積：105.29km<sup>2</sup>

高齢者人口：102,127人（高齢化率 29%）

豊能高齢者福祉圏

P.11～ 豊能町

「日常生活の延長線上にある、  
通いの場所としての認知症カフェ」

キーワード 認知症地域支援推進員

地域のつながり ピア 協働

通いの場としての認知症カフェ

人口：19,630人 面積：34.37km<sup>2</sup>

高齢者人口：8,723人（高齢化率 44.4%）

豊能高齢者福祉圏

P.16～ 池田市

「キャラバン・メイト連絡会発足から  
の取り組み」

キーワード 認知症の人が住みやすい街づくり

始まりはここから 出来ていることから

出来そうなことから 地域住民・認知症サポーター

人口：103,674人 面積：22.14km<sup>2</sup>

高齢者人口：27,833人（高齢化率 26.8%）

泉州高齢者福祉圏

P.49～ 阪南市

「マスタースカフェ」

キーワード 当事者の活躍 社会参加 共生型カフェ

人口：53,969人 面積：36.1km<sup>2</sup>

高齢者人口：17,302人（高齢化率 32.06%）

北河内高齢者福祉圏

P.26～ 門真市

「ゆめ伴プロジェクト in 門真  
～認知症になっても輝けるまちを  
めざして～」

キーワード 認知症の人と共に作るまちづくり

人口：121,728人 面積：12.28km<sup>2</sup>

高齢者人口：35,984人（高齢化率 29.5%）

中河内高齢者福祉圏

P.35～ 八尾市

「地域展開型認知症サポーター養成  
講座からのつながりと見守り  
～みんなでつなげようオレンジ  
の輪～」

キーワード 地域のつながり 気づき

認知症地域支援推進員活動 協働

人口：266,569人 面積：41.72km<sup>2</sup>

高齢者人口：75,351人（高齢化率 28.27%）

南河内高齢者福祉圏

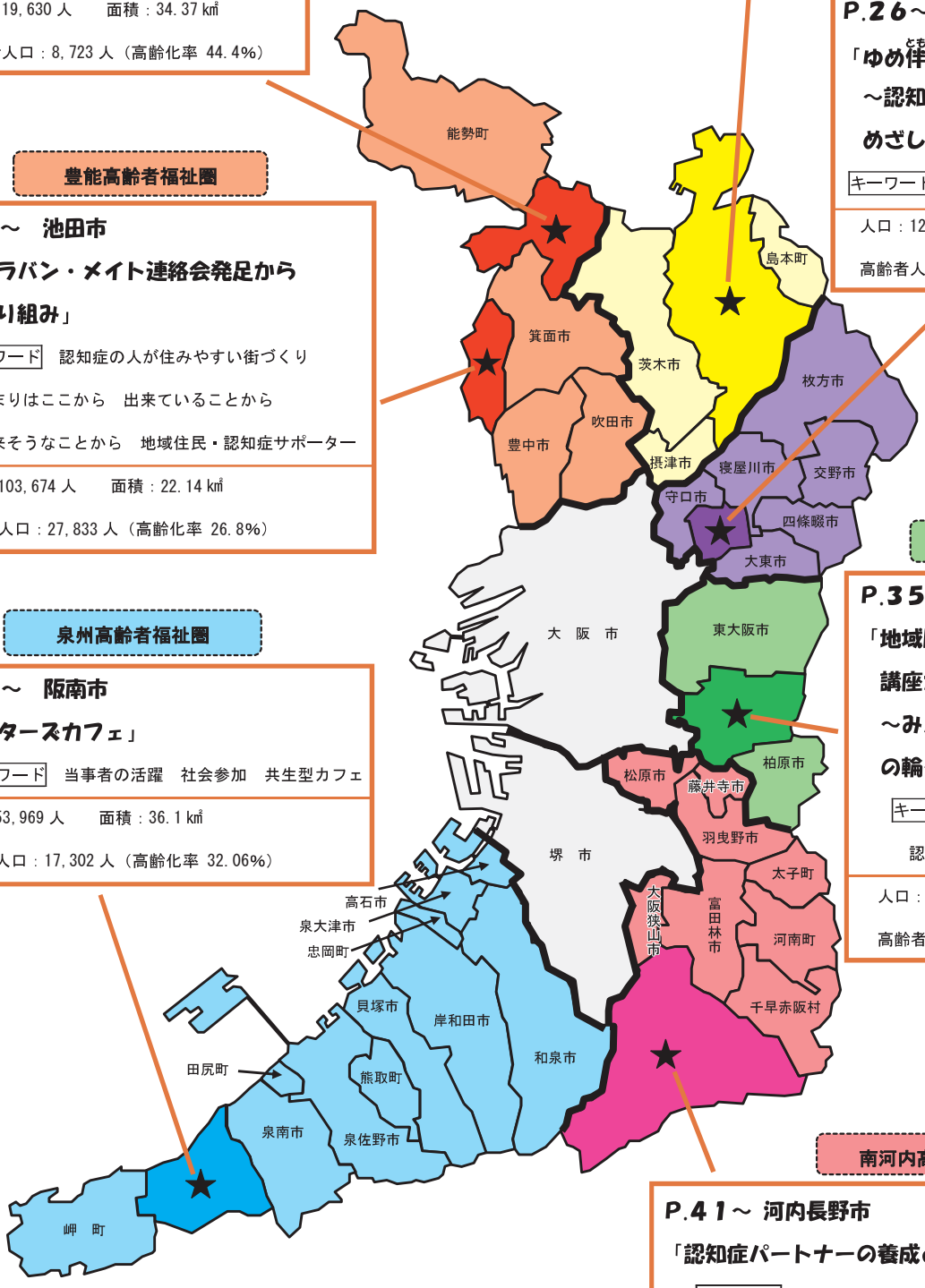
P.41～ 河内長野市

「認知症パートナーの養成とチームオレンジの立ち上げ」

キーワード ステップアップ研修 認知症サポーターの活動支援

人口：104,865人 面積：109.6km<sup>2</sup>

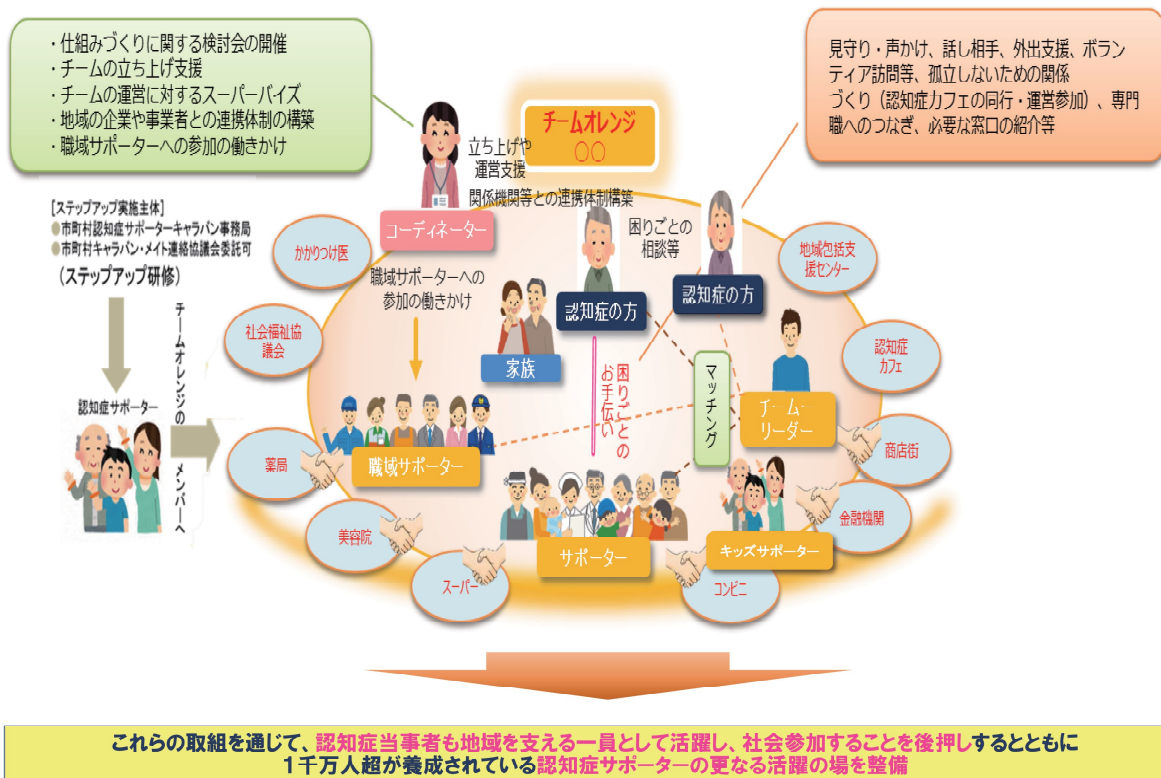
高齢者人口：36,016人（高齢化率 34.3%）



※ 各市町の「人口」「高齢者人口(高齢化率)」「面積」は、令和元年9月30日現在

## I. チームオレンジの構築を進めていくために

- ・ 市町村にコーディネーターを適宜配置し、認知症の方等の身近な困りごとを把握する
- ・ 市町村（コーディネーター）は、研修を通じてさらなるステップアップを図った認知症サポーターのチームを編成する
- ・ コーディネーター（チームリーダー）が把握したニーズとチームとのマッチングを実施する
- ・ チームによる外出支援、見守り・声かけ、話し相手、ボランティア訪問等、孤立しないための関係づくり（認知症カフェの同行・運営参加）等を実施する



（出典：令和元年9月2日付 厚生労働省令和2年度

認知症サポーター活動促進事業（チームオレンジ等について））

### （1） チームオレンジに求められる背景

認知症は誰もがなりうるものであり、家族や身近な方が認知症になることなどを含め、多くの方にとって身近なものとなっています。こうした中、認知症の方（以下、「本人」という。）を単に支えられる側と考えるのではなく、本人が認知症とともによりよく生きていくことができるよう、本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分ら

しく暮らし続けることができる社会の実現が求められています。その中で、チームオレンジは、本人や家族のニーズと認知症サポーターを中心としたチームメンバーをつなぐ仕組みであり、今後さらに高齢化の進展に伴い認知症の方の増加が見込まれる中において、その仕組みや具体的な活動が拡がることが期待されています。

## (2) 認知症サポーターの活躍の場

現在、認知症サポーターは府内で65万人（令和元年12月末時点）を超えています。認知症サポーターは、認知症を正しく理解し偏見を持たず、本人や家族を温かく見守る応援者です。その認知症サポーターの中には、一歩進んで、地域の中でさらに貢献したいと思っている方がいます。こうした方々の活躍の場が求められており、認知症サポーターの活動の場づくりもチームオレンジの目的のひとつです。チームオレンジを進めるうえで、「認知症サポーターの活躍の場」や「拠点づくり」は、大きなポイントと言えます。

## (3) 最も大切にすべきは本人

チームオレンジを進めるうえで最も大切にすべきは、本人ということは忘れてはいけません。本人の「したいこと」や「希望」、「夢」といった想いをまず把握し、それに向けて活動することがこの事業の原点であることを心のどこかにとどめておいてください。

また、「チームオレンジはこうあるべき」と決まった形がありません。地域や実情に応じて、さまざまなチームオレンジの形があることが自然であると思われれます。

## (4) 今の事業からヒントになるものを探す

チームオレンジを進めていく中で、「どこから進めていったらいいのかわからない」と困ることもあるかと思いますが、新しいことを立ち上げるというよりも、まず「今の事業のなかで、チームオレンジにつながる活動がないか」探してみてください。今の事業にヒントがあるかもしれません。市町村の事業の中になくても、地域の取組の中でキラリと光るものがあるかも知れません。広い視点でさがすことが大切です。また、ヒントがみつければ、次に「どうすればチームオレンジにつながるのか」を考えていきましょう。

## (5) できることから始めてみる

本人のニーズを受けてとめ、活動していくには多くの知識や経験、エネルギーが必要となります。自分の置かれている環境や状況をよくみて、できることから始めてみる。まずは、ひとりからでもいいので、その方とじっくりと関わってみては如何でしょうか。

何事も最初からうまくいくことはありません。本人との関わりの中で悩んだり、課題がでてきて当然ですし、課題や失敗も大切な経験です。焦らずにひとつずつ進め、経験を積み重ねていくことで、チームオレンジが地域に根付いていくことにつながるのではないのでしょうか。

## Ⅱ. コーディネーター活動の理念

- ・ 認知症の方等の身近な困りごと（ニーズ）を把握すること
- ・ 認知症の方や家族のニーズと認知症サポーターチームとのマッチング
- ・ チーム運営に対するスーパーバイズ

### ○ コーディネーターについて

チームオレンジのコーディネーターは「認知症の方等の身近な困りごとを把握する」、「認知症の方や家族のニーズと認知症サポーターチーム（チームメンバー）をつなげる」といった役割が求められています。さらに、「チームオレンジに関する検討会の開催」、「チームの立ち上げ支援」、「地域の企業や事業者との連携体制の構築」といったこともコーディネーターの役割として示され、コーディネーターは今後チームオレンジの中核を担うことが期待されています。

このように、コーディネーターには多くの役割が求められています。ただ、このような役割や形式（システム）にとらわれ過ぎないように、コーディネーターの方に心がけていただきたい理念についてまとめました。なお、この理念は、チームオレンジに携わるすべての方に通じるものです。

### ○ コーディネーターの活動の理念

#### (1) 先入観を持たずに関わる

人は「認知症」という言葉を聞くだけで多くのことをイメージします。認知症の方（以下、「本人」という。）と関わるみなさんは、特にたくさんのイメージが浮かぶと思います。

「認知症」は病名ではなく、症状や状態を指す言葉です。一人ひとりの性格や個性が異なるように、認知症の方の症状や状態もそれぞれ異なります。そのため、「認知症＝〇〇」と思いこんだり決めつけないことが大切です。ときには、「自分が先入観を持っていないか」と自分自身を振り返り、違う視点からみてみることで新しい発見があるかもしれません。

また、本人のニーズをイメージしたり、「こう想っているのではないか」と憶測で本人に寄り添うことはありませんか。ただ、実際には本人の想いと違っていることがあります。家族の方を通して、本人の想いをおしはかることもありますが、本人ではなく家族のニーズになっていることもあるので気をつけなくてはなりません。



## (2) たずねずに聴く

本人の本当のニーズを知るためには、本人が自ら話し始めた言葉を大切にしましょう。

自然と本人が口にした言葉を集めると、そのなかから見えてくる本当のニーズがあるかもしれません。

本人が自ら話してもらうきっかけづくりとして、「私の趣味で〇〇することが好きですが、△△さんはどのような趣味がありますか？どのようなことをすることがお好きですか？」などと聴き手側から自分の想いをオープンにし、本人も自分の想いをオープンにしやすい雰囲気になるよう意識し、一方的な聞き取りにならないようにしましょう。

## (3) 本人の想いを受容する

本人の言葉を批判したり、遮らないようにする。また、本人が本当の想いを話すには時間がかかることもあるので、「時間をかけて待つ」ことも大切です。

## (4) 信頼関係を築く

相手との関係が築けていなければ、自分のニーズは話しにくいものです。時間はかかりますが、訪問や声かけなどを通してお互いに知る機会を持つことが信頼関係につながることもあります。また、人それぞれ好きな場所や気候、雰囲気なども違いますので、本人がどのようなことが好きなのかを知ることも大切です。

## (5) 本人とともに楽しむ

「話を聞く」という姿勢そのものが、本人にとって負担や不安になることがあります。本人と関わるなかで、本人から自然にニーズが聞かれることがもっとも望ましいです。「他人は自分を写す鏡」という言葉があるように、自分が楽しむことが本人の楽しみにつながるがあるので、聴き手側が個性をだすなど、自分のことを知ってもらうことも大切です。

また、最初に「なにか困りごとはありませんか」と聞くと、支援する側と支援される側という関係性が生まれます。趣味や日常の楽しみなど、困りごと以外から関わりを持つことが大切です。ときには専門職という鎧を脱いで、「認知症の方と支援者」ではなく、「人と人」として向き合うことが大切になります。

## (6) しんがりをつとめる（いちばん後方からみるようにする）

先述したように、一人ひとりの症状や状態は異なるので、すぐに周りとは良好な関係性を築ける方もいれば、周りとの関わりが苦手な方もいます。コーディネーターは多くの認知

症の方と関わることになるかもしれませんが、「(関わりなどが) 得意な方」ではなく「苦手な方」の視点から寄り添い方などを考えていくことが大切です。

## ○ チームの運営について

### (1) チームオレンジのメンバー（以下、「メンバー」という。）の活動内容

メンバーは原則ボランティア活動となります。チーム運営に対するスーパーバイズを担うコーディネーターは、そのメンバーが役割や活動を自分で理解できるように内容を工夫することが大切です。例えば、認知症カフェを行う際には、タイムスケジュールや分担表、配置図を作成して示すなど、そのメンバーに求める役割が具体的に伝わるようにしましょう。

### (2) メンバー同士が想いを共有する場をつくる

メンバーによっては、「自分でいいのかな」「このやり方でよかったのかな」など、迷いながら活動していることもあります。同じ立場であるメンバー同士が活発に意見交換をすることで、メンバーの安心や自信につながります。

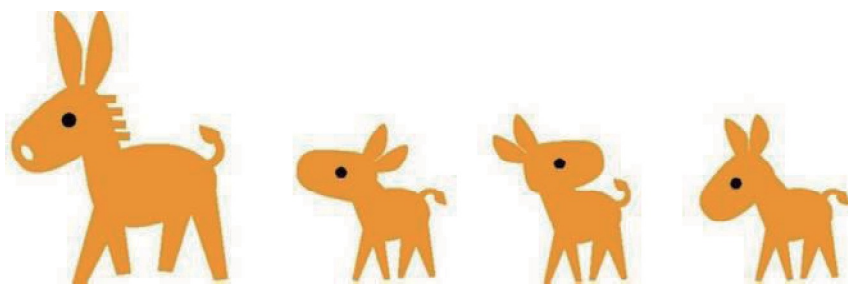
### (3) コーディネーターとメンバーがコミュニケーションをとる機会をつくる

コーディネーターは公平な立場でメンバーの話を聞くとともに、メンバーのモチベーションを高める声かけやアドバイスをすることが大切です。また、話し合い（交流会・勉強会）を持つことでコーディネーターとメンバーの間に認識の「ズレ」が見つかることがあります。そうした「ズレ」をなくすためには、対話をくり返す必要がありますが、そうすることで話し合いができる土台ができてきます。

また、メンバーから「(認知症の方) 本人への接し方がわからない」といった声があがれば、認知症の方の生活環境や状況を踏まえ、一緒に向き合って考えましょう。必要に応じてステップアップ研修を行うことも効果的です。

### (4) メンバーの自主性が育つよう意識して関わる

メンバーから出た意見をコーディネーターが活動に取り入れたり、メンバーに明確な役割を担ってもらうことが、メンバーの自主性につながります。そのなかで課題が出てくることもありますが、その際は一緒に課題と向き合うようにしましょう。課題への対応を積み重ねることでメンバーの対応力の向上につながります。



### Ⅲ. チームオレンジにつながる事例

#### 事例の構成について


各事例は以下のように構成されています。

〇〇市町 「 」					
キーワード		自治体や地域のプロフィールになります。			
○ 自治体情報					
人 □	人	高齢者 人 □	(高齢化率 %)	面 積	km <sup>2</sup>
市町の紹介					
① 活動の概要		取り組み内容や実施主体、連携した機関、取り組みの期間を載せています。			
② この活動に取り組んだきっかけと経過					
③ 活動内容		実際の取り組みの具体的な内容になります。			
④ 活動を進めていく上での工夫・配慮		各モデル市町が取り組みの中で工夫・配慮したところになります。			
⑤ 活動に取り組んで見えてきた効果・課題					
⑥ 今後の活動展望（期待・予想される結果など）					
この活動を通して見えてきたポイント					
参考資料		文章では伝えきれなかったことや活動の図解等があれば、参考として載せています。			

『徘徊』と言われている認知症の人の行動については、無目的に歩いているわけではないので、表現として好ましくないというご意見がありますが、事例の内容を正確にご理解いただくため、原文のまま掲載しております。

豊能町「日常生活の延長線上にある、通いの場所としての認知症カフェ」	
キーワード	認知症地域支援推進員 地域のつながり ピア 協働 通いの場としての認知症カフェ

## ○ 自治体情報（令和元年9月30日現在）

人 口	19,630 人	高齢者 人 口	8,723 人 (高齢化率 44.4%)	面 積	34.37 km <sup>2</sup>
町の紹介	<p>大阪府北西部に位置して、里山ムード満点の東地区と、ニュータウンの西地区に分かれています。</p> <p>東地区にはキリシタン大名「高山右近」ゆかりの高山地区もあります。</p> <p>また町内には史跡や石造美術も多くあります。</p>				

## ① 活動の概要

取り組み内容	認知症カフェのスタッフを増やす事でチームオレンジを担う人の輪を広げる
取り組みの実施主体	キャラバン・メイト、認知症サポーター
連携した機関等	社会福祉協議会、社会福祉法人、地域包括支援センター
取り組み期間	令和元年 10 月から

## ② この活動に取り組んだきっかけと経過

豊能町では、認知症サポーター養成講座を毎年積極的に行ってきました。認知症サポーターの数は順調に増加していましたが、その後の具体的な活動にはなかなか繋がらず、認知症サポーターになっても活躍する場所が少ないことが課題でした。

また、町内にどのくらい認知症の方がいるのか、特に、介護保険の利用が無い方の実数把握ができず、認知症になった方と実際に接する機会が少なく、身近な問題として実感できないという意見も多くありました。

今回、大阪府のチームオレンジ等構築モデル事業に参画し、認知症の方やその家族をはじめ、近所の方がかかわれる場所、そして、認知症サポーターやキャラバン・メイトが、身近な地域で具体的に活動ができる拠点作り（チームオレンジ）をすすめていくために、認知症カフェの仕組み作りに取り組んでいくことになりました。

### ③ 活動内容

#### 【認知症カフェの取り組み】

平成 27 年 9 月より、町内の認知症施策事業の一環として認知症カフェを立ち上げました。認知症カフェの運営は、職能のキャラバン・メイトや地域包括支援センター職員などの専門職が担い、取り組みは徐々に定着していきましたが、開催場所が西地区 1 カ所だけで、通える人や啓発周知も限定的でした。

その後、平成 29 年 5 月に、東地区のキャラバン・メイトより、自身の住む地域で一人暮らしや物忘れで不安を感じている方が安心して過ごせる場所が必要と声が上ががり、同年 5 月より 2 カ所目の認知症カフェが立ち上がりました。

その後も平成 31 年 3 月に、西地区で喫茶を経営しているキャラバン・メイトより、場所の提供があり、3 カ所目の認知症カフェ（現在は休止中）が立ち上がりました。

3 カ所の認知症カフェは、それぞれの個性を生かした居場所となり、参加者の交流、相談支援の場所であるだけでなく、「何か自分たちも手伝いたい」と思う高齢者や地域住民の参加や活動の場となる等、認知症サポーターやキャラバン・メイトの活動の一環として、認知症カフェの運営が広がって来ています。

また、認知症や外出の機会が無い方、地域との関わりの無い方がカフェの参加を通して、ボランティアや介護保険のサービスにも繋がっています。

令和元年度には、認知症対応型デイサービスの職員とキャラバン・メイトが協力して、4 カ所目の認知症カフェが立ち上がる等、今後も増えていく予定です。

【現在運営中の認知症カフェの紹介】

<p>『 カフェ あまなつ 』 開催日時：毎月第4月曜日の午後</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 平成27年9月より運営開始。</li> <li>• 運営主体が、平成31年より行政（町）からキャラバン・メイトへ移りました。</li> <li>• 現在の参加者は、総勢20名程度。</li> <li>• 住民のボランティアの方に演奏に来てもらったり、参加者も豆から挽いてコーヒーを淹れるのを手伝ったり、参加者とスタッフの区別なく、協力し合って楽しく過ごす場所を心掛けています。</li> <li>• また、専門職も参加しているので、認知症に関する相談を受けたり、関わっている方への紹介も行っています。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 平成29年5月より運営開始。</li> <li>• 現在の参加者は5名程度。</li> <li>• 参加者はほぼ固定されていますが、最初の利用時は初見だった方同士が、友人のような関係になっています。</li> <li>• 認知症のご本人や家族の方、自宅に一人である事が多い方等、事情は人により異なりますが、自分たちでスタッフと次回にやる事を決めて（ケーキのデコレーションや小物作り等）、皆で楽しい時間を過ごされています。</li> </ul>
<p>『 カフェ のせのせ 』 開催日時：毎月第2月曜日の午後</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 平成31年3月より運営開始。</li> <li>• 認知症対応型デイサービス事業所職員の職能キャラバン・メイト、近隣の住民キャラバン・メイト、並びに、地域包括支援センターと連携して発足。</li> <li>• 認知症の方やその家族、支援者、地域の方、誰でも気軽に参加して、専門職に相談する事が出来る集いの場を目指しています。</li> <li>• また、認知症のことを知りたいと思う地域の方との交流の場所になることも目的のひとつです。</li> <li>• ご本人の受け入れが難しく、サービスに繋がっていなかった独居の認知症高齢者の参加いただくなど、支援のきっかけの場となることも期待しています。</li> </ul>
	<p>『 カフェ すみれ 』 開催日時：年4回程度、土曜日の午前中</p>

#### ④ 活動を進めていく上での工夫・配慮

- 各地域（西地区、東地区）の通いの場（地域のサロン等）とも連携しながら、認知症カフェを増やしていきます。
- 既存の認知症カフェも含めて、今後新しく出来る認知症カフェとも連携や情報の共有を図る事で、町全体の活動にしていきます。
- 活動するメンバー（チームオレンジのスタッフ）を増やすために、認知症サポーターステップアップ講座を行っていきます。
- 認知症の方と関わることで、認知症サポーターとして、身近にできる事がある事に気付いてもらいます。
- 広報の仕方を工夫します。（地域や場所によって、口コミやメンバーからの紹介など）
- 出張カフェを行う事で、認知症カフェを行っている事を広く知ってもらいます。

#### ⑤ 活動に取り組んで見えてきた効果・課題

##### 効果

- 認知症カフェが、キャラバン・メイト主体の活動として定着してきています。
- 参加者で次にしたい事などを決めています。
- 認知症の方とその家族が、お互いに休む時間をもてるようになりました。

##### 課題

- 各自の認知症カフェが、独自に活動しており、町内に広く発信ができていません。
- 地区により数に偏りがあります。（西地区に2カ所、東地区に1カ所）、現状はほとんどの方にとって歩いて気軽に通える場所にはありません。
- スタッフの負担もあり月1回程度の開催に留まっています。
- 積極的に活動できるスタッフが限られています。

#### ⑥ 今後の活動展望（期待・予想される結果など）

認知症カフェに参加することを入り口とし、イメージとしては点から線そして面での支援に繋げていきます。その結果として、チームオレンジの構築に繋がっていくと考えています。

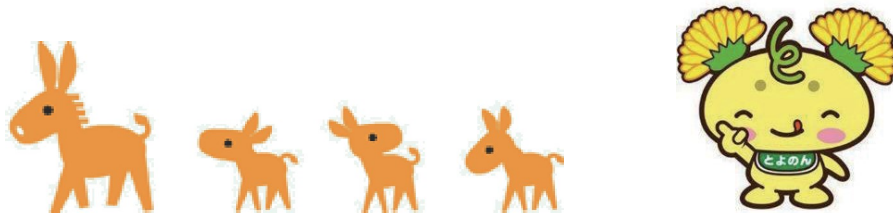
令和元年度は、事業所に勤務する方にもキャラバン・メイトになっていただいたり、施設の空きスペースを活用したりする等、認知症カフェの開催場所についても、増やしていくことができると考えています。

また既に、自主的に活動している認知症カフェには、チームオレンジの一員としての意識をもっていただきながら、新たに認知症カフェを増やして、その運営に関わる人を養成することで、拠点をはじめチームオレンジの輪を町全体に広げていきたいと考えています。



## この活動を通して見えてきたポイント

- 認知症サポーターやキャラバン・メイトの人数は多いが、その力を活用する場が必要
- 認知症カフェに来ることで、人同士の繋がりが出来て、日常生活での見守り等に広がる
- 認知症カフェを運営するリーダーを把握することで、参加者の把握や状況を確認することが出来る



## 池田市 「キャラバン・メイト連絡会発足からの取り組み」

キーワード	認知症の人が住みやすい街づくり 始まりはここから 出来ていることから 出来そうなことから 地域住民・認知症サポーター
-------	--

### ○ 自治体情報（令和元年9月30日現在）

人口	103,674人	高齢者人口	27,833人 (高齢化率 26.8%)	面積	22.14 km <sup>2</sup>
市の紹介	<p>池田市は、大阪市の中心部より北西に15 km<sup>2</sup>の所に位置しています。市域の中・南部は市街化され、国道・幹線道路が通っており、交通の便は良いです。北部は五月山や農地であり、交通機関は車です。</p> <p>また、2019年に市制施行80周年の節目を迎えました。人口10万人のコンパクトな街ですが、市域南部には大阪国際空港があり、交通の要所としての役割を担っています。</p> <p>ダイハツ工業の本社、日清のカップヌードルミュージアム、ウォンバットやアルパカのいる「五月山動物園」があり、国内外の観光客で賑わっています。</p>				

### ① 活動の概要

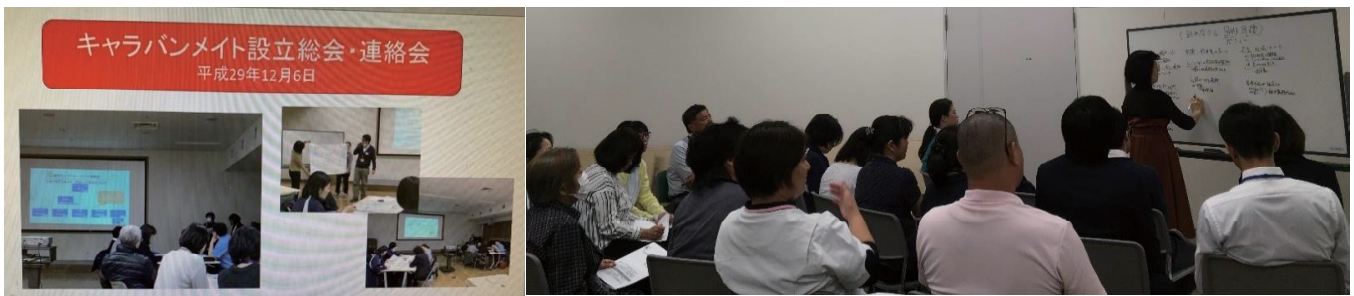
取り組み内容	キャラバン・メイト連絡会が地域の認知症啓発活動を進める
取り組みの実施主体	キャラバン・メイト連絡会
連携した機関等	行政、地域包括支援センター、認知症地域支援推進員
活動開始時期	平成29年12月から

### ② この活動に取り組んだきっかけと経過

池田市では、認知症の啓発活動がなかなか進んでおらず、地域住民の間では、「認知症だけにはなりたくない」などの声も聞かれる状態でした。また、参加者を一定数確保することが難しく、定期的に認知症サポーター養成講座を行うことができていませんでした。小学校や中学校での認知症サポーター養成講座の開催についても、実施に向け教育委員会へのアプローチを行っても進まない状況がありました。

そのような状況の中、中学生が福祉体験をするため施設や事業所を訪ね、認知症の人に接する機会があることを知りました。既存の取り組みを活用して、1つの中学校の校長先生に再度、認知症サポーター養成講座の開催を提案したことから、中学校での養成講座が実現しました。

池田市での取り組みを組織的に行えるよう、平成 29 年 12 月 6 日、キャラバン・メイト連絡会を立ち上げて、養成講座の展開のみならず、平成 30 年度には、地域の啓発活動につながる認知症見守り声掛け訓練を実施しました。



〔豊能圏域〕  
池田市

### ③ 活動内容

認知症サポーター養成講座の開催	平成 30 年度実績 16 回 1,222 名 令和元年度は市内の全 5 中学校、 2 小学校の留守家庭児童会にて実施
認知症高齢者見守り声掛け訓練	平成 30 年度 52 名 令和元年度 45 名 参加
認知症カフェの計画・勉強会の実施	令和元年度 6 月・10 月実施

実行委員に加え、市民から募った認知症サポーターの方々と取り組みました！

#### 小・中学校での認知症サポーター養成講座



中学校での様子



小学校での様子

4 心に残ったのはどんなことですか？

おばあちゃんが、みんなだれかわからなくなったときに、ぼくがぼくがいるからだいちょうぶって、いったところかがこうにのこりました。

5 何か自分のできそうなことはありそうでしたか？

じっとしていろんぼこまっている人がいたら、たすけてあげたいです。

子ども達の素直な意見や感想・気づきから主催者側も学ぶことが多いです。

## 認知症カフェについて考える

**認知症カフェ 講演会**

日時：2019年 5月28日（火）  
午後1時30分～4時


場所：池田市市民会館 5階大ホール

**内容**

第一節 講演「認知症カフェの立ち上げと継続について」  
～認知症カフェを創出した地域づくり～  
講師 認知症介護研究・研修センター副センター長 矢野 昭雄

第二節 グループワーク 池田市の認知症カフェの現状について話し合ってみよう！  
認知症カフェって何？ 誰がしてるの？ どのくらいできるの？ 認知症カフェってどんな場所を思い浮かべます？  
認知症カフェを立ち上げたい！ どうやらなららなければならないの？ など、お気軽にお答えします。  
【認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせる町づくり】のために、何が出来るかみんなで考えましょう。

お問合せ・参加申し込み  
池田市総合 地域支援課（072-754-6288） 先着 80名 参加無料  
主催：池田市キャリアバンク・メイト連合会 協賛：池田市福祉部地域課




どんな認知症カフェがあったらよいか、立ち上げはどうしたらいいか、みんなで考える機会を持つことができました。

## 商店街での検索・声掛け訓練



商店街で、認知症高齢者が行方不明になったという想定でグループに分かれて検索訓練を行いました。



どこからどのように検索するか打ち合わせ。



実際に、認知症高齢者役の方に話し掛ける様子。



市のキャラクターふくまる君も認知症啓発活動に参加！



#### ④ 活動を進めていく上での工夫・配慮

- ・キャラバン・メイト連絡会は、ボランティアならではの取り組みを進めていく一方で、地域包括支援センターや認知症地域支援推進員との役割分担や、どの機関がイニシアティブを取るべきなのか課題を感じており、共に取り組みを進めていくことができるように、会議やイベントがある毎にお知らせし、取り組みの共有を図っています。
- ・キャラバン・メイトは、各々に本業がある中で、ボランティアで活動を実施しています。そのため、「何か自分のできることをしたい！」という気持ちを持ち続けられるよう、時間がある時や参加してみたい時に、活動に参加できるような体制を作っています。

#### ⑤ 活動に取り組んで見えてきた効果・課題

- ・認知症サポーターの数は、国が目標とする養成数にはすでに達していますが、地域では、認知症サポーターが活動できる機会が少なく、活動には繋がっていません。
- ・しかし、キャラバン・メイト連絡会だけでなく、行政も認知症サポーターの活動支援について後方支援を行い、活動の場を広げることができるよう、協働しながら取り組んでいます。
  - ・認知症地域支援推進員や地域包括支援センターとの連携
  - ・関係機関、地域の土壌づくりの難しさ

#### ⑥ 今後の活動展望（期待・予想される結果など）

- ・認知症サポーター養成講座の教育機関での展開（小学校・中学校）
- ・認知症カフェの開催
- ・認知症見守り声掛け訓練の継続的な実施
- ・認知症サポーターの活動の機会を増やす→チームオレンジへの転換
- ・認知症啓発活動につながるイベントの実施

#### この活動を通して見えてきたポイント


- 認知症サポーターとして活動したい人がいる
- キャラバン・メイトとして活動したい人がいる
- 活動したいと思う人たちの力をうまくマッチングさせる仕組みが必要
- 認知症の人の想いを伝える役目が私たちにはある！

## 高槻市「認知症サポーターステップアップ講座の企画

### ～大阪府認知症介護指導者との連携～

キーワード	大阪府認知症介護指導者との連携 認知症パートナー 認知症サポーターステップアップ講座
-------	---

### ○ 自治体情報（令和元年9月30日現在）

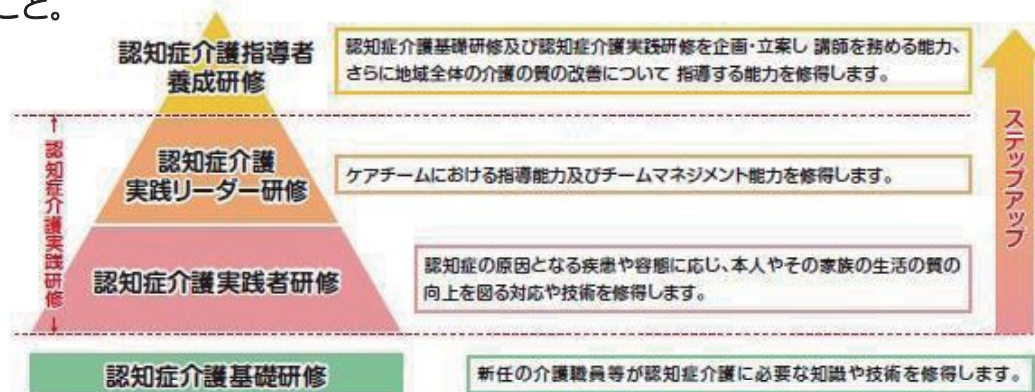
人口	351,642人	高齢者人口	102,127人 (高齢化率 29%)	面積	105.29 km <sup>2</sup>
市の紹介	大阪府と京都府のほぼ中間にあり、ベッドタウンとして栄えてきた。 中心部は都市化されているが、北部は山並み、南部は淀川に面した平野が広がり、地域特性が異なる。				 はにたん

### ① 活動の概要

取り組み内容	認知症サポーターステップアップ講座の企画
取り組みの実施主体	行政、認知症地域支援推進員
連携した機関等	大阪府認知症介護指導者 高槻市認知症キャラバン・メイト連絡会
活動開始時期	令和元年6月から

### ※大阪府認知症介護指導者とは・・・

「認知症介護指導者養成研修」を修了し、認知症ケア専門職を対象として研修の企画・立案・講師役をしたり、認知症の人などにやさしい地域づくりのために様々な活動をしている人のこと。



図引用：認知症介護研究・研修センター「認知症介護指導者養成研修」啓発チラシ

## ② この活動に取り組んだきっかけと経過

高槻市では以前より認知症地域支援推進員（以下、推進員）と高槻市を中心に活動している大阪府認知症介護指導者（以下、指導者）が連携して認知症の啓発に取り組んできた。

指導者（令和2年3月末で6名の予定）との協働の経緯は、平成25年に行政・指導者・推進員で構成される自主グループ「TEAM 高槻」が結成されたことが契機となった。そこで課題や情報を共有し、安心声かけ訓練（徘徊模擬訓練）、認知症啓発イベント、ソフトボール大会、RUN 伴などにおいて、企画立案、準備、実行などを各々の知識や経験、そしてネットワークを活かしながら協働してきた。

高槻市の認知症施策担当課では、以前より指導者が所属する法人宛に「市における認知症啓発事業への協力依頼」をしているため、市の企画に参画しやすい状況にある。また、現在2名配置の推進員の内、1名は指導者でもあるため、より連携がしやすくなった。

令和元年度に、認知症に関する理解促進と、すでに養成された認知症サポーターやキャラバン・メイトのスキルアップ、活躍の場の提供を目的に、高槻市認知症キャラバン・メイト連絡会を設立した。この連絡会には指導者も所属していることと、認知症サポーター養成講座を多く開催している地域包括支援センターや介護保険事業所職員が所属しているため、それぞれの強みを生かし、チームオレンジに参画を希望する認知症サポーター等を対象とした「認知症サポーターステップアップ講座（以下、ステップアップ講座）」を企画運営することとなった。



### ③ 活動内容

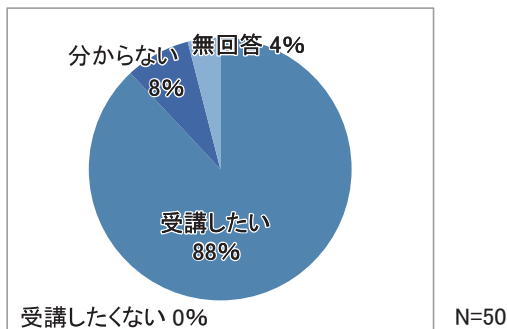
1. 認知症サポーター養成講座で「ボランティア活動に関する関心の有無」についてアンケートを実施し、ニーズ調査を行う（※ 図1 参照）。
2. 認知症啓発イベントで「どんな支援や場所がほしいか」についてアンケートを実施し、認知症サポーターにどのような活動を求められているかを検討する（※ 図1 参照）。

#### ※ 図1 アンケート結果

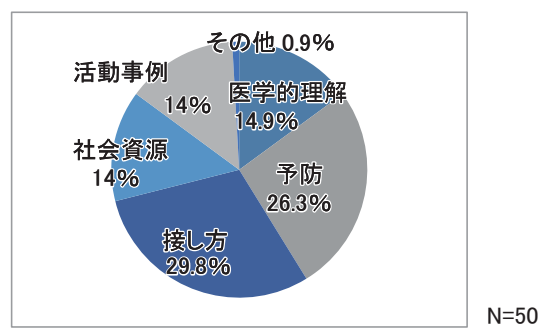
【アンケート回答者について】

- ・(1) (2) (3) ⇒ 認知症サポーター養成講座受講者（一般市民）
- ・(4) ⇒ 認知症啓発イベント参加者（一般市民）

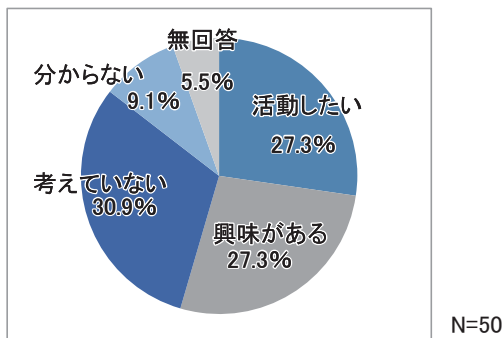
(1) ステップアップ講座を受講したいか



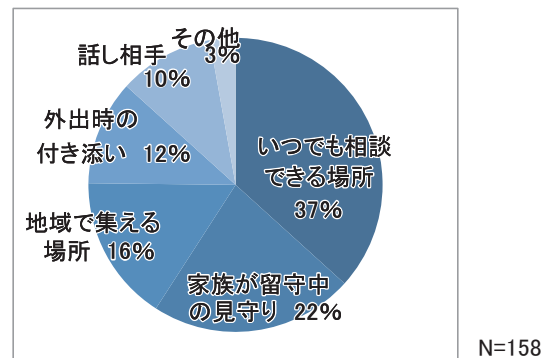
(2) ステップアップ講座で知りたい内容



(3) ボランティア活動について



(4) 認知症になったらほしい支援や場所は？



3. ステップアップ講座の内容を検討する。

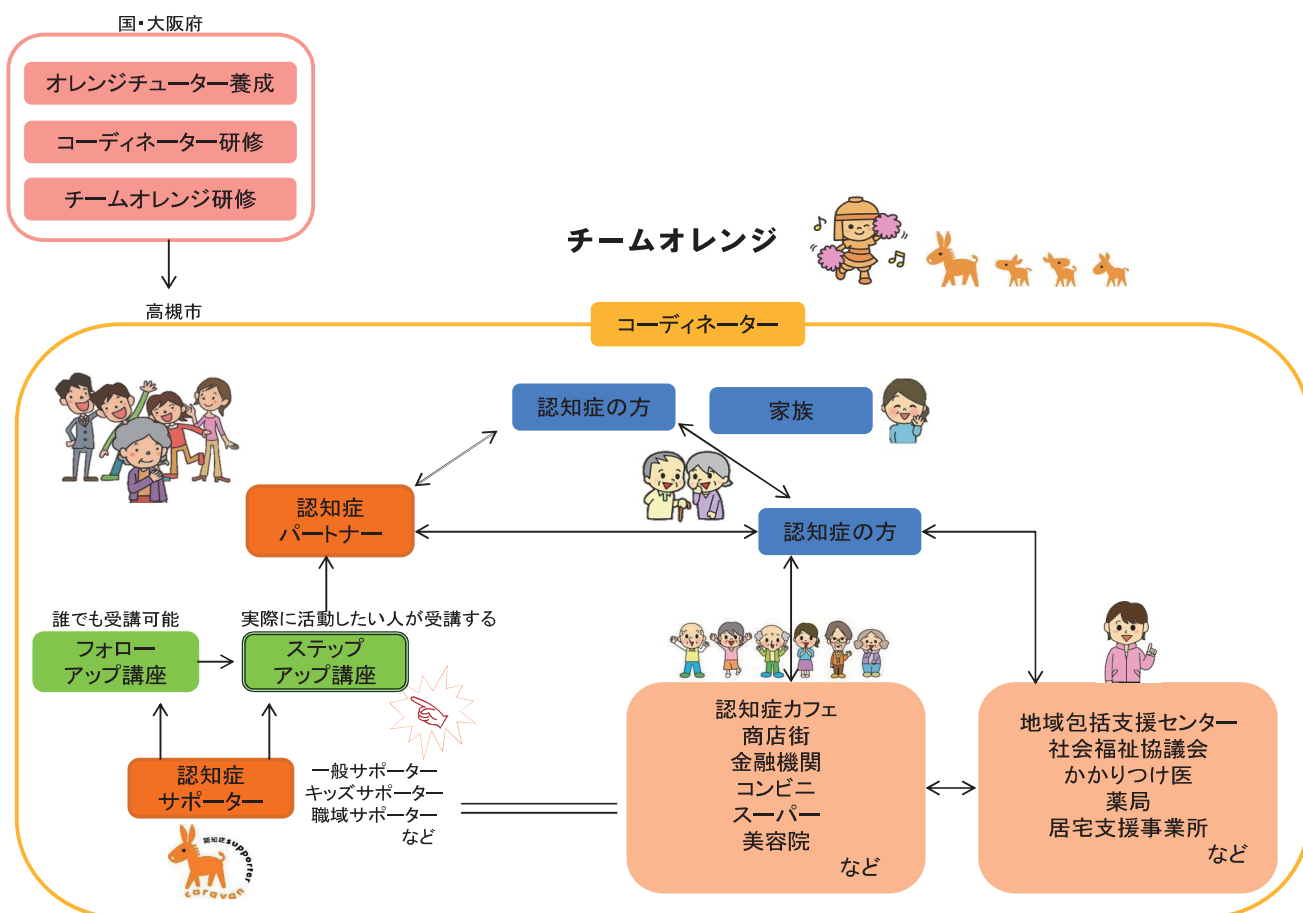
- ・ステップアップ講座に該当する統一要件を検討する。
  - a. 認知症の人とのコミュニケーション（関わり方）についての演習や実習がある。
  - b. 講座内容の立案に、指導者等が関与している。
  - c. 6時間以上の講座とする（1日あたりの時間は問わない）
- ・令和元年度末に、2時間×3日間（認知症カフェ交流体験含む）を実施予定である。
- ・まずは、高槻市キャラバン・メイト連絡会主催で開催し、以降は、各地域で主催できるようにしていく。



4. 認知症サポーターの中には、“活動することは難しいが、もっと勉強したい！”という思いの方も多い。

そのため、認知症の知識を深めるための「認知症サポーターフォローアップ講座（以下、フォローアップ講座）」とボランティア活動を見据えた「ステップアップ講座」を分けて実施していくこととなった（※ 図2参照）。

※ 図2 高槻市チームオレンジイメージ図



#### ④ 活動を進めていく上での工夫・配慮

企画当初は、年1回、行政が主催で開催する内容で企画していた。

しかし、現在活躍しているキャラバン・メイトのスキルアップや、多くの市民に受講いただけるように、「ステップアップ講座に該当する要件」を挙げ、行政以外の主催者が「ステップアップ講座」を実施できるように、講座内容について一定の要件を設け、講座内容の質を担保できるようにした。

そして、実際に活動する市民のことを「認知症パートナー」と命名し、養成することとした。受講希望者は、チラシを配布したり、市の広報誌を活用して周知した（※ 図3 参照）。

※ 図3 「ステップアップ講座」受講者募集のチラシ

表

あなたもボランティア活動してみませんか？

## 認知症パートナー養成講座

**認知症パートナーとは**

認知症サポーターのうち、さらに3日間の講座を受講し、具体的なボランティア活動を行う人です。



	日 時	場 所
1日目	2月25日(火) 13:30~16:00	高槻市総合センター14階C1401
2日目	2月26日(水) <small>時間は見学先により異なりますが2時間ほど</small>	認知症カフェ見学(別紙参照)
3日目	3月4日(水) 10:00~12:00	高槻市総合センター14階C1401

**応募条件**

- ① 傾聴や認知症啓発等のイベントのお手伝いなどのボランティア活動に意欲のある方
- ② 3日間のカリキュラムにすべて出席できる方
- ③ 認知症サポーター養成講座を受講したことがある高槻市内に在住または通勤通学している方



認知症superstar caravan

**定員**

20名(申込み先着順)

**費用**

研修に伴う交通費やカフェの参加費(100円程度)は自費となります。

**申込方法**

裏面の受講申込書記載の上、電話またはFAXにてお申込みください。  
※定員に達し、受講できない場合はご連絡します。

※ 講座内容は別紙をご参照ください。

主催：高槻市認知症キャラバン・メイト連絡会
共催：高槻市健康福祉部福祉相談支援課

裏

**FAX 送付先：高槻市健康福祉部福祉相談支援課**  
**FAX 番号：072-674-5135**

**【受付期間】 令和2年2月4日(火)～  
令和2年2月20日(木)**

**令和元年度  
認知症パートナー養成講座参加申込書**

氏名	フリガナ
住所	〒 - -
電話番号	番 号 ( ) - - 番 号 ( ) - -
メールアドレス (必須あり)	

**【お申込み・お問合せ先】**  
 高槻市健康福祉部福祉相談支援課  
 〒569-0067 高槻市徳重町2番1号  
 TEL 072-674-7171  
 FAX 072-674-5135



表

別紙 1

令和元年度 認知症パートナー養成講座 カリキュラム

実施日	時間 / 内容	講師
令和2年 2/25 (火)	13:30~13:40 ○オリエンテーション	高槻北地域包括支援センター 辻田 裕之
	13:40~15:30 ○認知症の人とのコミュニケーション	五領・上牧地域包括支援センター 福井 梨恵
	15:30~16:00 ○個人情報保護について ○第2回目見学実習について	郡家地域包括支援センター 徳留 規子
令和2年 2/26 (水)	各自 認知症カフェ等1箇所で見学実習 (2時間) ※実習先は裏面別紙2をご参照ください	各実習先担当者
令和2年 3/4 (水)	10:00~10:30 ○利用できる制度や社会資源相談窓口について 10:30~11:30 ○グループワーク～発表 ・実習のふり返り ・自分ができること 11:30~11:45 ○今後の活動について 11:45~12:00 ○修了式	高槻北地域包括支援センター 辻田 裕之

※ 内容は予告なく変更する場合があります。

裏

別紙 2

実習先一覧

**実習先① かみあみかん**

基本情報  
 ※認知症の人やその家族、専門職、近隣の学生等誰でも参加可能  
 ※毎月第4水曜日 10:00~12:00  
 ※料金：2人～1組 100円  
 ※事前予約不要 随時2名  
 ※駐車場：あり (台数) 都合があるため、車は隣1軒目確保必要  
 住所：高槻市大宮1-12番地 (高槻老人保健院4階4F1F)  
 電話：072-658-4302

**実習先② 五領コミュニティーセンター**

基本情報  
 ※認知症の人やその家族、専門職、近隣の学生等誰でも参加可能  
 ※毎週水曜日 10:00~16:00  
 (実習) 10:00~12:00 予定 (13:00~15:00)  
 ※事前予約不要 (台数) 12名程度  
 ※駐車場：あり  
 住所：高槻市大宮2-37番地 (高槻老人保健院4階4F1F)  
 電話：072-668-3601

**実習先③ 叫楽っくす Cafe**

基本情報  
 ※認知症の人やその家族、専門職、近隣の学生等誰でも参加可能  
 ※毎月第4水曜日 13:30~15:30  
 ※料金：2人～1組 100円  
 ※事前予約不要  
 ※駐車場：あり  
 ※認知症の人やその家族、専門職、近隣の学生等誰でも参加可能  
 ※毎月第4水曜日 13:30~15:30  
 ※料金：2人～1組 100円  
 ※事前予約不要  
 ※駐車場：あり  
 住所：高槻市大宮2-37番地 (高槻老人保健院4階4F1F)  
 電話：072-657-2290

※各自1箇所の実習先と致します。研修初日に希望を伺い、実習先を調整します。

## ⑤ 活動に取り組んで見えてきた効果・課題

認知症サポーター等が、チームオレンジに参画し、活動していくためには、「ステップアップ講座」が必要とされているが、講座内容については、各市町村に一任されている。

そのため、講座開催や容に一定の要件を設けることで、主催者を限定することなく、今後、各地域で、質の担保された講座が行われることを目指し、チームオレンジの育成に繋がってほしいと考えられる。

また、各地域に、チームオレンジが構築されていくことは望ましいが、チームの継続と個人情報管理が課題となる。併せて、チームオレンジのコーディネーターを担うことができる人員の確保も急がれる。

## ⑥ 今後の活動展望（期待・予想される結果など）

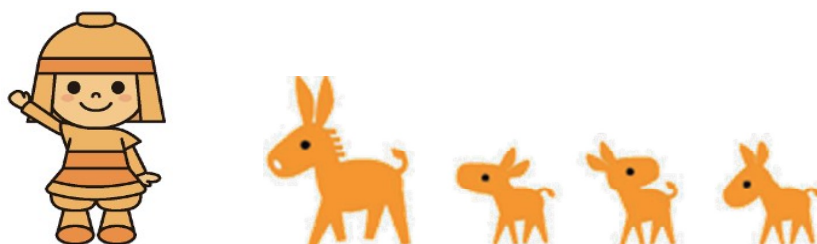
- 各地域で、キャラバン・メイトが、ステップアップ講座を開催することができ、各地域のチームオレンジの構築に繋がっていくことができる。
- キャラバン・メイトのスキルアップにも繋がる。
- 講座を開催するにあたり、多職種連携が必要であり、横の繋がりが構築される。

また、「認知症パートナー」として活動はできないが、認知症について関心を持ち、知識を深めたいという市民のために「フォローアップ講座」を企画する予定である。

今後、「フォローアップ講座」受講者の中からも、「認知症パートナー」に対して意欲関心を持つことができるような講座内容を考えていきたいと考えている。

## この活動を通して見えてきたポイント

- 以前より、推進員活動に指導者の協力体制があったため、既存の関係を活かすことが当市では有効であった。
- ステップアップ講座の開催や内容について、一定の要件を設けることで、キャラバン・メイトが講座開催に取り組みやすくなるとともに、多職種連携を図ることができる。
- ニーズ調査をすることで、「ステップアップ講座」の内容等について具体的に検討することができる。
- 「認知症パートナー」として活動できなくても、認知症に関心を持ち、学ぶ意欲のある市民は多数いる。「ステップアップ講座」とは別の講座（「フォローアップ講座」）を企画することで、市民の意識を高めることにつながる。




# 門真市「ゆめ伴<sup>とも</sup>プロジェクト in 門真

～認知症になっても輝けるまちをめざして～

キーワード 認知症の人と共につくるまちづくり

## ○ 自治体情報（令和元年9月30日現在）

人口	121,728人	高齢者人口	35,984人 (高齢化率 29.5%)	面積	12.28 km <sup>2</sup>
市の紹介		門真市は約 4 - 5km 四方の正方形形状。 交通機関は 京阪電車・京阪バス・モノレール・大阪メトロ があり、さらに国道 163 号線、中央環状線・ 第二京阪などの幹線道路が通り、アクセスの利便性が高い。			

## ① 活動の概要

取り組み内容	認知症の人や高齢者が、街の中で輝きながら 生きがいや楽しみ、夢が実現できるまちづくり。
取り組みの 実施主体	門真市介護保険サービス事業者連絡会・門真市地域包括支援センター 門真市社会福祉協議会・くすのき広域連合門真支所・地域活動団体
連携した機関等	行政・地元企業・保育園・地域住民・寺社
活動開始時期	平成 30 年 4 月から

### <私たちの想い> ～認知症の人と共に楽しみを探し続ける～

認知症になっても、夢をもち、夢をかなえたい。そしてその夢をかなえる道のりを、まち全体で伴走していこうと「ゆめ伴（とも）プロジェクト」と名付けました。

一人ひとりのささやかな夢をかなえるために、認知症の人や地域の人、企業・介護関係者・行政・社会福祉協議会職員の想いが一つにつながり、様々なワクワクするような活動や場を創り出しています。

そこで地域の人が認知症の人の喜びや感動を共有することにより、絆が深まっていきます。「共に楽しむこと」「つながること」「やってみること」を大切に、これからも夢のある活動を展開していきたいと思えます。



ゆめ伴マーケットスタッフ写真

## ② この活動に取り組んだきっかけと経過

### < 活動のきっかけ >

#### 「認知症の人の笑顔からの気づき」(平成 28 年)



認知症の人や高齢者がオレンジ色のTシャツを着て市内のコースを市民と共に歩き、ゴールをめざす「RUN伴+門真」を平成28年より開催。  
(主催：門真市介護保険サービス事業者連絡会)  
日頃は無表情な認知症の方が、ゴール時に見せてくれた晴れやかな輝く笑顔に感動したと共に街の中で活躍したり、楽しんだりする場がほとんどないことに気づかされた。



#### 「認知症のお母さんと娘さんの声がきっかけに」(平成 29 年)

「認知症の母はまだまだ働きたいと言っています。  
以前のようにキラキラ輝いてほしい！  
認知症になっても希望を失ってほしくない！  
認知症になっても輝ける場所があったらいいのに！」  
という、娘さんの声を聞いたケアマネジャーが  
このお母さんが活躍できるカフェを創れないかと  
周囲に相談したところ、共感の輪が広がった。



#### 「みんなでつながって、認知症の人が輝ける場や活動を創ろう！」(平成 30 年)



門真市介護保険サービス事業者連絡会(約 250 事業所)  
門真市社会福祉協議会、くすのき広域連合門真支所  
みんなのかどま大学、NPO 法人門真まちづくり研究所  
クリエイティブチームプラスあるふぁが連携し  
「ゆめ伴プロジェクト in 門真実行委員会」を  
平成 30 年 4 月に発足。

認知症の人が参加できる場や活動を街中にバリエーション豊かに創っていくこととした。

ゆめ伴プロジェクト in 門真実行委員会は令和元年度に次の賞を受賞しました。



◎令和元年 厚生労働省

「第8回健康寿命をのばそう! AWARD!」

厚生労働大臣最優秀賞を受賞。

◎令和元年 NHK 厚生文化事業団

「第3回 認知症とともに生きるまち大賞」の大賞受賞。

## < 活動の経過について >

活動を行う中から、様々な「やってみたいこと」やアイデアが生まれ、みんなの力を合わせて「やってみた」ところ、活動が徐々に広がり増えてきたという流れで現在に至っている。

平成 28 年 10 月	RUN 伴+門真 開催⇒毎年 1 回開催
	RUN 伴コンサート 初開催⇒毎年 1 回開催
平成 30 年 4 月	ゆめ伴プロジェクト実行委員会 発足⇒毎月 1 回実行委員会開催
// 5 月	ゆめ伴ファーム 開拓⇒毎月 4 回畑作業実施 綿花プロジェクトスタート⇒綿花栽培、収穫後の種取り、糸紡ぎなど 随時実施
// 8 月	ゆめ伴カフェ 初開催⇒2 カ月に一度開催
平成 31 年 3 月	ゆめ伴サロン 初開催⇒毎月 2 回開催
令和元年 5 月	ゆめ伴マーケット 初開催⇒毎年 1 回開催予定

### ③ 活動内容

#### RUN 伴+門真 ～みんながみんな英雄になる 1 日～

「車いすのお父さんをマラソン大会に参加させてあげて元気になってもらいたい！」



認知症の人と家族や認知症サポーターがペアになり約 200 人のランナーが市内を助け合いながらゴールをめざすスポーツイベント。認知症の人が安心して楽しく参加できる地域活動であるとともに、地域住民が認知症の人と楽しむことで認知症への理解を深めることを目的としている。地元企業が休憩地点の提供や応援・PR などで協力。

市内のスポーツイベントと同時開催し、若い世代とも関われるよう工夫をしている。

毎年 11 月に開催。

また、同時開催で中継地点やゴール地点で認知症サポーター養成講座を実施

【スタッフ】介護・福祉・医療関係者約 50 人の RUN 伴実行委員会が実施

【参加者】合計約 200 名～300 名

施設・グループホームの入居者や、在宅の要介護高齢者など 90 名～100 名

ペアを組んで参加する家族や介護スタッフ、市民の方など約 100 名

中継地点などでの応援者が約 100 名

【協力者】地元企業などが場所の提供や協賛金の協力。ボランティア団体が随所で協力

## ゆめ伴カフェ ～おしゃれな空間でお客様と一緒に笑い合う至福の時間～

まだまだ何でもできる！と認知症であることを受け入れられないお母さんにおしゃれなカフェで活躍してもらいたい！



認知症の人と地域の人が共にスタッフとなり、お客様をおもてなしするカフェ。毎回、認知症の人約9名がスタッフとして活躍。また、カフェの開催日だけでなくカフェ企画会議にも参画し、そこで出された、アイデアや意見をカフェに反映させている。地域の方は認知症の人とペアになりサポートを担当。

場所は、門真市内のレストランカフェの協力を得て、カフェ定休日を利用し2ヵ月に1度開催している。不定期だがお寺でも開催している。

- 【スタッフ】認知症の人、市民ボランティア（認知症サポーター、認知症予防リーダーなど含む）ゆめ伴実行委員など約20名のカフェスタッフ
- 【参加者】座席数20名の事前予約制。地域の人や家族、関係者など
- 【協力者】ハッピービーンズカフェ、願得寺（場所提供）



## ゆめ伴ファーム ～土の香りの中でゆるやかに時間が流れる癒し空間～

畑にいるだけで気持ちいい！体を動かしたい！



認知症の人や地域住民が共に地域交流の畑を耕し綿花や野菜の栽培を行っている。畑は、グループホームの約90坪の畑を活用。認知症の人や高齢者で「畑仕事をしたい！」「昔、畑をしていた！」「体を動かしたい！」という人が畑作業に参加している。地域の高齢者が主体となり、認知症の有無にかかわらず、一人ひとりのペースで、汗を流し

楽しみながらの畑作業は参加者の心身の健康につながっている。近隣の保育園児たちも遊びに来ており、認知症の人や高齢者自身が多世代交流の場を創る担い手にもなっている。

- 【スタッフ】地域の高齢者約10名、地域包括支援センター2名、ゆめ伴実行委員1名
- 【参加者】近隣の保育園児や、認知症の人や地域の人が遊びに来る
- 【協力者】街かどケアホームれんか（畑の場所提供）

## ゆめ伴サロン ～認知症の人と地域の人が出会い、友情を育む空間～

膝が悪いけど何かしたい！手作業や会話を楽しみたい！



認知症の人や地域住民が集い、手作業や会話を楽しみながら時間を過ごすサロンを月2回開催。ゆめ伴ファームと同敷地内の屋内で、同日に開催。膝が痛いなど、畑仕事が苦手な方でも参加できる活動としている。

またダンディコーヒーと称し男性高齢者チームがハンドドリップコーヒーを提供。

コーヒーを淹れる役割を担うことで男性も参加しやすい体制づくりをしている。

【スタッフ】 ゆめ伴実行委員2名、  
地域包括支援センター2名  
市民スタッフ2名（認知症サポーターなど）  
ダンディコーヒー2名

【参加者】 地域の高齢者や認知症高齢者など、約15名  
【協力者】 街かどケアホームれんか（サロンの場所提供）



## 綿花プロジェクト ～多くの市民も巻き込んだ、認知症の人と共に紡ぐ「糸」の物語～



昔、門真でも盛んだった綿花をゆめ伴ファームで栽培。認知症の人と共に収穫した綿の実から糸を紡ぎ、地元の織物専門家の協力をタペストリーやコースターなど自主製品を製作。

今年は収穫した綿花の種を約500人の市民に配布し、地域全体のまちづくりプロジェクトを展開中。

今後、完成する自主製品は地域の絆の結晶として「ふるさと納税返礼品」の登録をめざす。

【スタッフ】 ゆめ伴実行委員1名  
ゆめ伴織姫コットンクラブメンバー5名  
【参加者】 糸紡ぎ体験会を年3回程度開催し  
糸紡ぎの指導などを実施

【協力者】 染色専門家、織物専門家、糸紡ぎ専門家





## ゆめ伴マーケット ～地元企業のアイデアでスタートしたプロジェクト～



地元企業の発案で、グループホームの敷地を活用し地域の花屋、タオル屋、パン屋、駄菓子屋などの企業が出店。

認知症の人が1日店長になり、地域住民に向け販売を通じて地域交流につなげているマーケット。今年は200人以上が来場。

好評により毎年1回開催予定。

【スタッフ】認知症の人、市民サポーター（認知症サポーター含む）

地元企業、ゆめ伴実行委員、介護関係者など、総勢60名程度

【参加者】地域の家族連れなど約200名

【協力者】地元企業、保育園、ボランティア団体など

## ゆめ伴コンサート ～認知症になっても歌で誰かを感動させることができる場～



歌が好きな認知症の人が主役となり輝くコンサートを毎年1回開催。

イオン古川橋駅前店の特設ステージで、買い物客を前に歌声を披露している。

さらに認知症の人と地域住民と一緒に歌う

「ゆかいなゆめ伴合唱団」を結成し

今後、様々なステージに出演する予定。

【スタッフ】ゆめ伴実行委員、介護関係者など、約10名

【参加者】認知症や高齢者の方々が歌が好きな方、約5名

【協力者】イオン古川橋駅前店（ステージの場所提供）、SA門真の会（ボランティア）

## ④ 活動を進めていく上での工夫・配慮

### ～高齢者や認知症の人と、その家族～

- ▶日頃からの会話を大切にした。（何気ない会話から知ること多かった）
- ▶今までの生活の中や関わりの中から得意なこと探しや、興味を見出した。
- ▶自信をもって活躍できるような環境作り。

### ～地域の人～

- ▶それぞれの認知症の人の関わり方の情報共有。
- ▶認知症サポーター養成講座で「ゆめ伴」の活動を情報発信。

★ゆめ伴プロジェクト実行委員会では毎月会議を行い、プロジェクト全体及び各活動の課題や評価、今後の方向性について検証を行っている。

★年1回（4月）、各活動の参加者が集まり、活動の振り返りや気づきなどの意見交換会を開催。

## ⑤ 活動に取り組んで見えてきた効果・課題

### <効果>

- ▶ 認知症の人の効果 …家族以外の地域住民と関わりをもち役割を担うことで自信に満ちた表情に変わり、BPSD が軽減されるなどの変化が見られている。  
(→80代、Aさんの事例参照)
- ▶ 地域の人々の効果 …認知症の人と自然に仲間となることで、認知症の人への理解が深まりさらに、認知症の人と共に活動に参加し楽しむことがその人自身の生きがいや喜びとなっている。  
(→70代、Tさんの事例参照)

### <80代、Aさんの事例>

「1年半前は不安そうな表情だったAさんが、活動への参加を通じて仲間が増え、ついには新幹線に乗って厚生労働省での授賞式にも出席。最高に輝かれました！」



要介護認定を受け、デイサービスを体験利用したものの「何であんな所行かなあかんの！」と怒り介護保険サービスにはつながらず、娘さんと常に一緒に過ごし他者との関わりが殆どなかったAさん。娘さんから「認知症の母はまだまだ働きたいと言っています！以前のようにキラキラ輝いてほしい！」

認知症ながらも希望を失ってほしくない！

認知症ながらも輝ける場所があったらいいのに！」

という声から、ゆめ伴カフェがスタート。

Aさんもスタッフとして参加されるようになりました。

カフェ初日は「帰る、帰る」と、最後まで居ることができず

その後も娘さんへの依存傾向や不安から、娘さんの後ろに隠れるようにして、話しかけても小さな声で軽く微笑むだけ

でした。しかし、ゆめ伴ファームでの草抜き作業などには

のんびりと参加できるようになり、次第に顔なじみが増え、カフェへの参加も

ご自身から「カフェの仕事なら行きたい！」と話すようになりました。

カフェへ来られると自ら率先して洗い物などをし、晴れ晴れとした表情で帰っていかれます。

今では、早起きし「仕事に行くで！」と畑やサロンにも参加され、娘さんがそばに居なくても地域の方と笑顔で一緒に様々な活動に参加されています。

さらには、デイサービスへも行けるようになりました。

令和元年 11 月に本プロジェクトが厚生労働省の「第8回健康寿命をのばそう！」



AWARD！」で最優秀賞を受賞し、授賞式に「みんなで行けば大丈夫だから！」と、ゆめ伴実行委員のメンバーでAさんと娘さんをお誘いし、一緒に東京へ行ってきました。



Aさんは、厚生労働省の中を颯爽と歩かれ自信に満ちた笑顔で表彰状を掲げておられました。認知症になっても、人と人との関わりの中で喜びや楽しみを感じて生きることができることを、私たちはAさんから学ばせていただきました。

### <70代、Tさんの事例>

「介護保険サービスを卒業し、ゆめ伴サロンでいきいきと輝いているダンディなTさん。地域活動に参加するようになったのは、いろいろな出会いがきっかけ。」



約10年前に脳梗塞、2年前に膝の手術を行いデイケアに通っていましたが、外出することが少なく地域との関わりも薄かったTさん。

そんなTさんに地域包括支援センターの担当ケアマネジャーが市社会福祉協議会主催の

「男のコーヒーハンドドリップ講座」を紹介。

さらに美味しい珈琲を淹れることを通して地域活動への参加につながればと

社会福祉協議会職員が、ゆめ伴サロンで

「ダンディコーヒー」と称して

おいしいコーヒーを淹れる活動を試してみようかと提案。講座を受講した同じくダンディな仲間と共に、

現在、グループホームのご利用者や地域の方々と話を

弾ませ、新しい仲間も増やしてくれています。

活動の中で、認知症地域支援推進員ともつながり、認知症サポーター養成講座やステップアップ講座、介護予防教室などにも参加され、活動の場は益々広がっているTさん。介護保険サービスを卒業し、今は認知症の人や地域の人に喜んでもらいたいといきいきと活躍されています。

今では「とにかく自分も楽しむこと！何事も楽しくなければ、やっぱり続かんしね。それが一番じゃないかな」と、話しておられます。

認知症の人だけではなく、関わる様々な人も参加することを通じて輝くことができます。その秘訣は、やはり「共に楽しむこと」が一番大切であることを改めて教えてもらいました。

## 〈課題〉

- 各活動の開催頻度。
- 各活動の場所まで1人で参加できない方へのサポート。

## ⑦ 今後の活動展望（期待・予想される結果など）

様々な活動に参加される認知症の人や市民が増加し、新たな場や活動が自然発生的に創出していけることが期待される。

さらに、ゆめ伴プロジェクトの取り組みを門真市から各地に広げて、多くの認知症の人が輝ける社会になることを期待して活動していきたい。

## この活動を通して見えてきたポイント

①～⑦の展開を繰り返しながら活動が広がり、バリエーション豊かなまちづくりが見えてきた。

活動の展開	ポイント
①認知症の人や家族の心の声や想いを聴く	<ul style="list-style-type: none"><li>• 認知症の人の声を聞き流さないこと</li><li>• できないと決めつけないこと</li><li>• あきらめないことが大切！</li></ul>
②聴いた心の声や想いをいろんな人に伝え続ける	<ul style="list-style-type: none"><li>• 小さなつづやきが大きな展開につながるが多い！</li></ul>
③共感する人と想いが一つになり人の輪が広がっていく	<ul style="list-style-type: none"><li>• 専門職だけではなく多様な人とつながってみよう！</li></ul>
④認知症の人と共に活動の場をつくってみる	<ul style="list-style-type: none"><li>• 何でもダメ元でやってみる！</li><li>• 失敗してもOK！</li><li>• ゆるゆるでOK！</li><li>• という空気感を意識してみよう！</li></ul>
⑤認知症の人と共に活動を楽しむ	<ul style="list-style-type: none"><li>• 支援する側、される側ではなく同じ視点で、同じ立場の仲間として一緒に活動をする絆が深まる！</li></ul>
⑥活動に住民、団体、企業を巻き込んでいく	<ul style="list-style-type: none"><li>• 楽しいところには人が集まってくる！</li></ul>
⑦多様な人と認知症の人が混ざり合う場が展開され認知症の人の声や想いをひろうことができるようになる。	<ul style="list-style-type: none"><li>• 認知症の人と感動を共有体験した地域の人や企業の方は、心を動かされ次の展開の活動で、活躍してくれることが多い。</li><li>• こうして、活動に自ら楽しんで関わってくれる人が増えていく！</li></ul>

# 八尾市「地域展開型認知症サポーター養成講座からのつながりと見守り

## ～みんなでつなげようオレンジの輪～

キーワード 地域のつながり 気づき 認知症地域支援推進員活動 協働

### ○ 自治体情報（令和元年9月30日現在）

人 口	266,569 人	高齢者 人 口	75,351 人 (高齢化率 28.27%)	面 積	41.72 km <sup>2</sup>
市の紹介	八尾市は、大阪府中央部の東側、大阪平野の中心に位置し、東は信貴生駒山系を境に奈良県に、西は大阪市に接している。豊かな自然と古代から栄えた歴史に恵まれ、あたたかい人情をもった 27 万人の人々が暮らすまち。				

### ① 活動の概要

取り組み内容	認知症の理解、啓発、拠点づくり、地域の気づき など
取り組みの実施主体	認知症地域支援推進員
連携した機関等	市、地域包括支援センター、介護保険事業所、キャラバン・メイト、介護予防サポーター、まちづくり協議会、民生委員 など
取り組み期間	平成 30 年 4 月から

### ② この活動に取り組んだきっかけと経過

- ・“認知症に関する知識不足”が高齢者虐待の理由になっていることが多くあった。
- ・“認知症サポーター養成講座をどこかでしていませんか？”との問合せが市にあった。  
\*市主催では年 1 回、他は保険会社や町会等、団体からの希望のみでの開催で、限られた方しか受講することができない状況だった。
- ・地域の集まり（ふれあい喫茶、高齢者サロン、独居高齢者食事会、民生委員定例会など）では、“認知症の人への接し方がわからない”との声がよくきかれた。  
\*そのために、認知症になると地域でかかわりを避けてしまうこともある様子だった。

⇒時間的にも場所的にも参加しやすい形で開催するため、薬局や施設等の市内各地の空きスペースを利用した「地域展開型認知症サポーター養成講座」を開催することとした。

### ③ 活動内容

- 平成 30 年 4 月 地域包括支援センター（以下、包括）などへ相談し、地域開催を行うための場所探し。
- 平成 30 年 5 月 民間薬局カフェブースで開催。※その他の場所も含め、年間 9 か所開催。
- 平成 31 年 2 月 八尾市地域ケアケース会議合同定例会で、地域展開の認知症サポーター養成講座、声かけ体験の取組報告を行い、多職種、関係機関へ周知、啓発。
- 平成 31 年 4 月 包括 15 か所の担当区域全か所での開催を企画。

### ④ 活動を進めていく上での工夫・配慮

- “認知症の人への接し方がわからない” との声への対応として、認知症サポーター養成講座の中に「認知症高齢者声かけ体験」を組み込んでいる。
- “認知症予防ゲーム”（参加者みんなで一つの輪になって座り、一緒に声をあげて笑い合うなかで短いゲームを次々とやっていく。ゲームが進むにつれて、運動量も指先から少しずつ増えていく。楽しみながら知らないうちに身につくように考えられたプログラムは一つ一つに意味があり、大きな効果につながる）を地域で自主活動しているグループと連携して、認知症サポーター養成講座と同日で実施して今後の活動や集い場所、機会を創出している。



- \* 集い場所については、民間の薬局にあるカフェブース、市が管理している公園内の休養スペース、グループホームや特別養護老人ホームの地域交流スペース、休日のデイサービスのテイルームや包括の活動室、市役所の出張所などを利用している。
- 認知症サポーター養成講座の開催日時は時間帯、開催曜日など幅を持たせて企画（午前、午後や平日、週末など）
- 開催場所については、地域の隔たりがないように市内各地（日常生活圏域毎）で開催。
- 認知症サポーターが、開催運営に協力しやすい役割を考えた。



- \* 会場設営、受付、参加者の案内、資材準備、機材動作、チラシ配り、シナリオを見ながら寸劇に参加、参加者の話し相手など、認知症サポーターに行っていただけそうなことを聞いてご協力いただいている。
- 広報活動では“市政だより”で活動内容の報告や開催案内をしている。



- ・各地域の団体（自治会、まちづくり協議会、高齢クラブ、民生委員など）と開催の案内等で連携した。



＊各地域の団体との連携については、“顔なじみ”になるために、地域の祭りの手伝い、食事会、ふれあい喫茶、高齢者サロン、定例会、施設の運営推進会議などへの参加や、包括、社会福祉協議会へ相談して認知症サポーター養成講座や勉強会を企画するなど、できるだけ多くの接する機会を持つことで関係性を構築した。



## ⑤ 活動に取り組んで見えてきた効果・課題

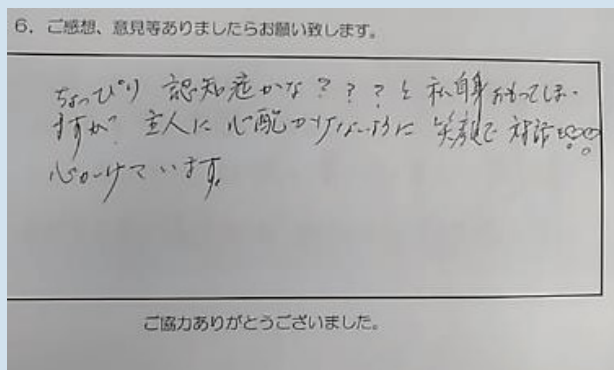
（効果）

- ・高齢者だけでなく、学生や30～50歳代の参加者が増えた。



- ＊曜日、時間帯を選択（就労中の人は週末のほうが参加しやすいことなど）できやすいように企画、市政だよりへの掲載、市役所窓口でチラシを配架、回覧板での案内、八尾市薬剤師会の実習生、一部の学校PTAの役員の方などへ周知した。
- ・認知症カフェなどでも講座を開催してもらえるようになり、認知症本人や家族の参加機会も増えた。

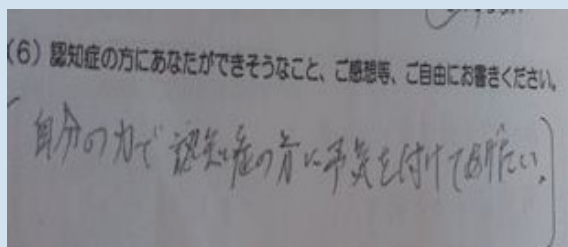
### <アンケートで若年性認知症本人が書いてくれた思い>



#### <受講に至るまで>

包括、認知症地域支援推進員（以下、推進員）、認知症初期集中支援チーム員（以下、チーム員）、ケアマネジャーが関わりながら、認知症本人、家族と信頼関係を構築した。推進員が自宅近くの施設で認知症サポーター養成講座を企画し、包括より認知症本人、家族へ案内し、当日はチーム員が一緒に参加している。企画した施設は、地域活動の教室が行われている等、認知症サポーター養成講座開催後の地域とのつながり等も考えて選定している。

＜認知症本人のアンケートで書いてくれた思い＞



＜受講に至るまで＞

包括職員が個別ケースを通じて、家族へ講座参加の声かけをすると、認知症本人も一緒に参加された。当日は、包括職員も認知症本人の様子を見に来られた。



- ・ 声かけ体験を認知症サポーター養成講座内に組み込み始めてから、講座を受講・体験した方が、地域で道に迷っている認知症本人に声かけをして、保護をすることができたケースが3件あった。



\*保護ができたケースの紹介

＜事例1＞ 発見者： 地域ケアケース会議での声かけ体験参加者

(高齢介護課以外の市職員)

市役所付近で様子が気になる高齢者がいたため、声かけ体験を思い出して声かけしたところ、その高齢者には認知症があり、自宅に帰れない状況になっていたことがわかった(警察や市にも捜索依頼が出ていた)。市と包括が連携し、無事に自宅へ帰っていただくことができた。

＜事例2＞ 発見者： 地域展開の認知症サポーター養成講座の受講者(一般住民)

自宅付近で、見覚えのある高齢者(誰かはわからないが、転居して自宅がこの付近ではないことは知っていた)が徘徊していたのを見て、声かけ体験のロールプレイで練習した通りに対応して、自宅へ送ることができた。

→ このケースでは、発見者が一人で対応したが、対応できない場合には、市や包括へ相談するなど確認した。



### ＜事例3＞ 発見者： 地域展開型認知症サポーター養成講座の受講者

(認知症カフェの運営スタッフ)

認知症カフェの開催場所近くで、高齢者が道に迷っている様子であったので声かけをしたところ、その高齢者は、認知症カフェ開催場所ではない地域に住んでいることがわかった。このため、地域の町会長と連携して、無事に自宅へ帰っていただくことができた。

- 活動取組当初は、ほとんど推進員が一人で企画、認知症サポーター養成講座を開催していたが、市包括、認知症サポーター、地域住民ボランティアなどつながりが増えた。  
\*市内の全小学校で、3年かけて「認知症キッズサポーター養成講座」を開催することとなり、一部中学校でも認知症サポーター養成講座の開催依頼が増えた。

#### (課題)

- 認知症サポーター養成講座受講後に記入いただいているアンケートの中で、記載されている相談内容に対応することができていない。
- 認知症サポーター養成講座受講後の取組が構築されていない。
- 声かけ体験を行うが、見守り体制の構築など、包括との具体的な連携ができていない。

## ⑥ 今後の活動展望（期待・予想される結果など）

- キャラバン・メイト、認知症サポーターが各地域で認知症サポーター養成講座、声かけ体験の企画、開催を行う。
- 各地域で、認知症サポーターが認知症本人や家族の見守り、相談のつながりができるようになる。
- 認知症疾患医療センターなどとの連携で、認知症サポーター養成講座の中で、認知症本人、家族の相談機会を確保することができるようになる。
- “認知症”というだけではない、お互いが“こころくばり”ができる地域づくりの一環になる。



## ★ ちょっと認知症本人との啓発活動を始めました ★

＊認知症本人の活動機会や場所などをどのように設定したのか？

→「今、自分にできることをしてみよう」という推進員自身の思いでスタート。  
今までの活動で場所を貸していただいたグループホームに相談した。

＊活動内容として、認知症の啓発グッズを認知症本人と一緒に作成している。

グッズは、ポケットティッシュに差し込む啓発チラシを詰める作業を行っている。

＊認知症本人については、グループホームの入居者に依頼。作業を行う際は、認知症本人へ認知症の啓発であることを説明して、一緒に作業を行っている。

(施設、家族には、グループホーム運営推進会議にて説明している)



完成品を市役所の窓口に置かせていただきました！！




### この活動を通して見えてきたポイント

- 介護者は、日々の介護に追われると、認知症の知識や情報を聞いても受け入れられる余裕がないことが多い。しかし、講座では話を聞く余裕もあるので、知識や情報を受け入れることができる場合が多く、介護者自身の振り返りの機会にもなっていた。
- 地域では、認知症の知識不足により認知症本人を住民が避けてしまうことがあったが、基本的な知識や接し方を体験することで認知症本人への見方が変わっていった。
- 認知症本人の参加が少しずつ増え、アンケートで認知症本人の声を知る機会になった。
- 市内全域で開催していくことで、各地の地域住民や認知症サポーターとつながることができた。

# 河内長野市「認知症パートナーの養成とチームオレンジの立ち上げ」

キーワード ステップアップ研修 認知症サポーターの活動支援

## ○ 自治体情報（令和元年9月30日現在）

人口	104,865人	高齢者人口	36,016人 (高齢化率 34.3%)	面積	109.6 km <sup>2</sup>
市の紹介		大阪府の南東端に位置し、奈良県・和歌山県と隣接する。 市域がとても広く 2/3 が山間部で自然が豊か。 国宝・重要文化財も多い。 新興住宅地が多く、 高齢化率は大阪府下の市の中で 1 位。			

### ① 活動の概要

取り組み内容	ステップアップ研修「認知症パートナー養成講座」の実施と活動支援
取り組みの実施主体	行政、認知症地域支援推進員
連携した機関等	認知症疾患医療センター、大阪府認知症介護指導者、グループホーム、認知症キャラバン・メイト連絡会等
取り組みの開始時期	平成 27 年度から

### ② この活動に取り組んだきっかけ（経過）

認知症の人が、住み慣れた地域で暮らし続けるためには、専門職による公的サービスでの支援だけでは難しく、地域のボランティアによる支援が必要と考え、認知症の人に寄り添うボランティアである「認知症パートナー」を養成する講座（「認知症パートナー養成講座」）を平成 27 年度から開催。令和元年度で 5 年目を迎え、養成数は 100 人となった。



〔南河内圏域〕  
河内長野市

年度	チームオレンジに関すること	その他認知症施策
平成19年度	認知症キャラバン・メイトの養成開始	認知症講演会開始
	認知症サポーター養成講座開始	
平成20年度		認知症コーディネーター（専門職）の養成開始
平成21年度		認知症地域資源マップの作成
平成24年度	認知症キッズ★サポーター養成講座開始（小学生）	認知症専門職研修開始
		認知症地域資源マップを「認知症あったか安心マップ」（冊子）として再編
平成25年度		認知症高齢者SOS模擬訓練開始
平成26年度	認知症キャラバン・メイト連絡会設立	認知症地域支援推進員1名配置（認知症介護指導者）
		推進員主催「河内長野市認知症地域連携連絡会」開始
		「認知症あったか安心マップ」改訂 認知症ケアパスを追加
平成27年度	認知症パートナー（ボランティア）養成講座開始	認知症カフェ・もの忘れ相談会開始
	認知症サポーターがいる事業所登録の開始	RUN伴開始
		ONE HEART ソフトボール大会開始（大阪狭山市と共催）
平成28年度	認知症サポーターの集い開始	認知症初期集中支援チーム3チーム設置
	→具体的なボランティア活動にはつながりにくく2年で終了	認知症コーディネーターによる専門職出前研修開始
		「認知症あったか安心マップ」改訂 認知症サポーター養成講座のテキストとして使用
平成30年度	市立中学校全校で認知症ジュニア★サポーター養成講座開始	認知症家族介護者教室「おれんじくらぶ」開始
	本人ミーティング「ほんわかくらぶ」開始	「認知症あったか安心マップ」改訂
	認知症パートナーが個別支援を開始	認知症ケアパスの内容変更
令和元年度	認知症MIRAIづくりミーティング（自主団体）活動開始	認知症地域支援推進員3名配置（各包括1名）
	本人ミーティング・認知症相談会などを開催	河内長野市認知症地域連携連絡会設置要領制定
	「チームオレンジ河内長野」の登録	「認知症あったかねっと」と通称



河内長野市  
〔南河内圏域〕

### ③活動内容

現在 85 名の認知症パートナーが、「認知症パートナーの会」に所属し、活動を行っている。  
 活動内容としては、グループホーム等での傾聴活動、認知症カフェのスタッフ、おれんじファームで育てた野菜で調理や喫食を楽しむ「カレーパーティ」「おいもパーティ」の開催、また、平成 30 年度からは個別支援も行っている。

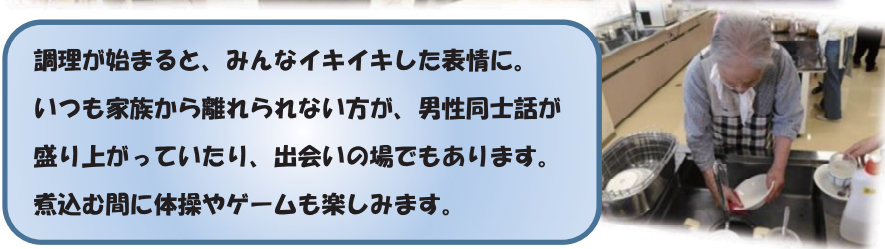
#### 「まちかどカフェ」(認知症カフェ)



パートナー犬  
「じろうくん」も  
活躍中!



#### おれんじファーム & 「カレーパーティ」「おいもパーティ」



調理が始まると、みんなイキイキした表情に。  
 いつも家族から離れられない方が、男性同士話が  
 盛り上がっていたり、出会いの場でもあります。  
 煮込む間に体操やゲームも楽しめます。

#### 個別支援

「一緒に散歩や買い物を楽しみたい」という  
 認知症パートナーの意見から始まりました。

寂しくて、隣家へ1日に何十回も行ってしまおう方のご自宅へ  
 4人体制で訪問し、隣家に行く回数が激減しました。  
 認知症の進行とともに、また状況は変化していきますが、  
 その時の寂しさや不安が少しでも和らぎ、ご本人に喜んで  
 いただけるととてもうれしいです。(担当パートナーより)

認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを目標に  
 ボランティア活動に取り組んでいるグループです。

## 私たちは 認知症パートナー です

料金 無料

(活動内容)  
 ・まちかどカフェ(認知症カフェ)のスタッフ  
 ・デイサービスやグループホームで傾聴ボランティア  
 ・認知症の人の活動支援  
 ※おれんじファームで作った野菜を使って、  
 みんなで調理して食べるパーティーを年2回開催!  
 ※個別支援もスタート!  
 (お話し相手、散歩や買い物の付き添いなど)

認知症パートナーの個別支援をご希望の方は、  
 担当の地域包括支援センターへお申し込みください。

	TEL/FAX	担当学区
東部地域包括センター	TEL 0721-52-0180 FAX 0721-52-0181	千代田・美野・川上
中部地域包括センター	TEL 0721-55-3451 FAX 0721-55-3452	三日月・南花台・加藤田・石坂 大見・東御坊
西部地域包括センター	TEL 0721-56-6000 FAX 0721-53-8080	瀬・小川原・天野・高岡

【問い合わせ先】  
 河内長野市高齢福祉課 TEL 0721-53-1111(代)

〔南河内圏域〕  
 河内長野市

## ④ 活動を進めていく上での工夫・配慮

### ●認知症パートナー養成講座を行う際の工夫

- ・認知症サポーター養成講座で、認知症パートナーの活動紹介を行い、認知症パートナー養成講座（以下、講座）の案内希望者を募る。
- ・募集の際には、「認知症ボランティアとして活動できる人」と明記する。案内を希望者に送付するほか、市広報紙や市ホームページにも掲載する。その際は、パートナーの写真やコメントも載せると効果的。  
（認知症について学びたい人は、認知症サポーター養成講座等を紹介）
- ・講座内容は、1日4時間のカリキュラム（※＜参考資料＞参照）を4日間行い、時間をかけて学ぶことで自信となり、認知症パートナー同士の仲間としての意識も強くなる。
- ・カリキュラムでは、認知症の理解だけではなく、認知症の人の気持ちを理解した対応方法ができるような内容にする（ロールプレイやグループでの寸劇の作成・実演）。



平成 30 年 6 月号 市広報



- ・講座では、グループホーム等での実習の時間を設け、活動の体験をしてもらう。
- ・最終日には、修了証・名札・バッジ（※ 右下の写真 参照）を渡し、認知症パートナーの活動への気持ちを高めるため、集合写真を撮る。  
また、認知症パートナー定例会の日程表を渡し、今後、具体的にどのような活動を行っていくのかは、定例会にて認知症パートナー同士で検討してもらう。



## ●認知症パートナー活動を推進するための工夫

- ・活動は、各自できる範囲で・無理なく・楽しくしてもらう。
- ・講座開催後、年10回（平成30年度までは12回）定例会を開催している。  
認知症パートナーは、活動をする中で「こんなのでもいいのかな…。」「お役に立てていない気がする。」「対応の仕方が分からない。」等相談したいことがたくさん出てくるため、専門職も定例会に参加し、認知症パートナーの活動報告で具体的に悩み事などを聞き取り、対応方法について一緒に考えたり、活動先の施設スタッフの意見をフィードバックしたりして、活動をサポートしている。
- ・また、3か月ごとに活動希望を記入していただき、活動先の認知症カフェの主催者や施設に活動希望日・パートナーの氏名・連絡先を送付している。
- ・活動をどのように推進していくのか、定例会にて認知症パートナーと話し合う。  
平成29年度末に次年度の活動について話し合った際、「個別で一緒に買い物に行ったり、散歩したりするような支援がしたい」という声が認知症パートナーよりあがった。
- ・認知症パートナーの活動がいかに重要なものであるか、定例会等で専門職が伝え続け、エンパワーする。



## ⑤ 活動に取り組んで見えてきた効果・課題

- 認知症カフェ、施設、おれんじファーム、個別支援と活動に広がりが出てきて、認知症パートナー各々、自分の得意な事や好きな事を活かした活動ができるようになってきている。
- 個別支援を始めてから、必要時にケアマネジャーと連絡を取り合ったり、個別地域ケア会議に認知症パートナーが参加する等、地域の支援者との連携も進みつつある。
- 講座受講後、活動に参加していなかった認知症パートナーも、地域で自分のできる範囲で認知症の人と関わりを持っている。そのため、今後も認知症パートナーの養成を継続することで、地域の認知症対応力の向上につながっていくと考えられる。
- 5年間かけて少しずつ活動を広げる中で、個別支援が既に始まっていたため、本人ミーティング等を開催している団体「認知症MIRAIづくりミーティング」と共に、チームオレンジをスタートすることができた。



## ⑥ 今後の活動展望（期待・予想される結果など）

- 令和2年度から、チームオレンジの交流拠点を開設予定（月1回）。
- 将来的には、各地域包括支援センターの担当地域ごとに、民生委員や自治会等と連携を密に活動を行っていくことを目標にしている。
- 「認知症 MIRAI づくりミーティング」のメンバーと共に、認知症になってからも希望を持って暮らし続けられるように、活動内容を検討し取組みを進めていく。

知っておきたい認知症のこと⑥

### 認知症とともに生きる

希望を持って自分らしく暮らし続けたい

認知症になったからといって、急に何もできなくなるわけではありません。できることはたくさんあって、いろいろな可能性があります。意識にしばられず、楽しいことやりたいことにチャレンジしてみよう。

市内にはそんなお手本となるような人が多くおられます。その中の一人、森由美子さんにお話を聞きました。

園高給福祉課

いつごろから認知症に？ 私は去年3月、若年性アルツハイマー型認知症と診断されました。それまでは病院で看護師として働いていましたが、診断後半年間は休職し、現在は介護士として同じ職場で働いています。

正直、休職中また復帰できるか、不安でいっぱいでしたが、同じ認知症当事者の人たちの出会いや職場の大きな理解の元、職場復帰できました。これからも頑張って仕事を続けていきたいです。

— その元気の源は？ —  
当事者同士が語り合い元気になる集い「ほんわかくらぶ」に参加しています。気持ちを分かち合える仲間と出会うことは、前向きに生きる力からえます。

**森さんからのメッセージ**

認知症になったからすべてを諦めないでください。ひとりで悩まないでください。私は認知症になって、この夏、生まれてはじめてサーフィンをしました。認知症になっても、いえ認知症だからこそ、どんどん挑戦していきます。希望を持って生きていきましょう。

※「ほんわかくらぶ」など認知症の人のための集いについてのお問い合わせは高齢福祉課へ。



令和2年1月17日

小学校での認知症キッズ★サポーター養成講座の様子

令和元年9月号 市広報

## 「認知症 MIRAI づくりミーティング」

認知症と上手につき合っていく地域文化を育み、「認知症になっても幸せに生きられる」希望ある未来を目指し活動しています。

＜構 成 員＞ 認知症の人、家族、ボランティア

（顧問）認知症サポート医・大阪府認知症介護指導者

＜活動内容＞ 本人ミーティング、認知症の人・家族・専門職を対象にした相談会等

## この活動を通して見えてきたポイント

- 一人一人の“気持ち”が大切。「楽しい」「うれしい」が活動継続の力。
- 手間暇はかかっても、人が増えれば返ってくる効果はとても大きい。
- 住民の力を信じること。







あなたも ボランティアしてみませんか？

# 認知症パートナー 養成講座

**[ 日時 ]** 8/2・16・30・9/13日（金）

AM10:00～PM3:00（8/30は午前のみ）

**[ 会場 ]** キックス 3階 視聴覚室(8/2・16・30)  
中会議室(9/13)

**[ 対象 ]** 認知症の方やご家族へのボランティア活動に参加できる人

**[ 定員 ]** 20名

**[ 内容 ]**



★ 認知症の医学的理解 認知症疾患医療センター 大阪さやま病院 北野あゆみ先生

★ 認知症の心理的理解

★ 認知症の方とのコミュニケーション

★ 認知症パートナーの活動について



★ 認知症グループホームなどでの活動体験(上記日程以外で1時間程度)



現在76名のパートナーさんが活躍中です！

河内長野市 高齢福祉課

TEL 0721-53-1111（平日：AM9:00～PM5:30）

FAX 0721-50-1088

MAIL koureifukushi@city.kawachinagano.lg.jp

お申込み  
お問い合わせ



## 令和元年度 認知症パートナー養成講座 プログラム

日 時		講 師
8/2 (金)	10:00~10:15	○開講式・オリエンテーション
	10:15~12:15	○認知症の医学的理解
	12:15~13:15	○休憩
	13:15~15:00	○認知症の心理的理解
8/16 (金)	10:00~12:00	○コミュニケーション①
	12:00~13:00	○休憩
	13:00~14:00	○コミュニケーション②
	14:10~15:00	○施設実習の説明
8/30 (金)	10:00~11:00	○コミュニケーションの実際
	11:10~12:00	○認知症パートナーの活動について
各自 グループホーム等で実習		
9/13 (金)	10:00~11:00	○実習の振り返り
	11:00~12:00	○演習（寸劇づくり）
	12:00~13:00	○休憩
	13:00~14:00	○演習（寸劇づくり）
	14:00~14:30	○グループワーク・発表
	14:30~14:45	○今後の活動について
	14:45~15:00	○修了式

全体の担当：認知症地域支援推進員

## 阪南市「マスタースカフェ」

キーワード 当事者の活躍 社会参加 共生型カフェ

### ○ 自治体情報（令和元年9月30日現在）

人口	53,969人	高齢者人口	17,302人 (高齢化率 32.06%)	面積	36.1 km <sup>2</sup>
市の紹介		<p>大阪府の南西部に位置し、大阪市の中心部から約45km、和歌山市から約10kmの距離となっている。</p> <p>「第7期阪南市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画」総人口は減少傾向にあるなか、65歳以上人口は増加傾向にあり、2025年には高齢化率が35.5%になることが予想されている。</p>			

### ① 活動の概要

取り組み内容	当事者の声から生まれる拠点づくり
取り組みの実施主体	マスタース（当事者、介護者含む有志の男性グループ）
連携した機関等	行政、地域包括支援センター、認知症地域支援推進員、社会福祉協議会、阪南市介護者（家族）の会（男性介護者の会）、キャラバン・メイト、市内障がい福祉サービス事業所、手話サークル など
取り組み開始時期	平成30年5月よりプロジェクト開始 平成30年9月に実施。以降、毎週木曜日に継続して実施。



## ② この活動に取り組んだきっかけと経過

認知症地域支援推進員（以下、推進員）が、日頃の相談支援を通じて、以下の思いや声をニーズとしてキャッチしていた。

1. 生涯学習推進室や市立図書館による「キッチンのある空きスペースで『にぎわい』『活性化』の生まれる継続的な交流の場をつくりたい」という思い
2. 男性介護者の会に所属する一人が語った「妻が認知症になった時、相談場所がわからず困った。悩みを聞いてもらえて、人と出会える場所はとても必要なこと」「自身の体験を活かして、悩んでいる人の話を聞いてあげたい」という思い
3. 認知症当事者から聞いた「毎日特に行くところもなく、図書館に通っている」という声

これらのニーズについて当事者を含む関係者同士で話し合いを行った結果、活動する住民と各種団体が協働し『認知症にやさしい図書館』を作り上げていくことが大きなテーマになることを共有。そのテーマを元に「知る、学ぶ、つながる」の3つのプロジェクトを立ち上げ、その中の「つながる」プロジェクトとしてマスターズカフェを実施することになった。

知る! 学ぶ! つながる!  
認知症にやさしい図書館  
プロジェクト

2018年9月より、認知症について「知る」「学ぶ」「つながる」プロジェクトを開催します! この機会にぜひ認知症について考えてみませんか?

●知る ～認知症啓発の特設コーナー～  
認知症に関するさまざまな  
情報が手に入ります♪  
場所: 図書館 特集コーナー

●学ぶ ～認知症サポーター養成講座～  
・9/3(月) 10:30～ ※3回とも内容は同じです  
・9/10(月) 13:30～  
・9/17(月) 10:30～  
場所: サラダホール2階 視聴覚室

●つながる ～マスターズCafe～  
9/6(木)～ 毎週木曜13:30～15:00 開催!  
認知症 気になるアナタもコーヒーブレイク  
場所: サラダホール1階

認知症にやさしい図書館プロジェクト

連絡先 阪南市立図書館 072-471-9000 阪南市尾崎町35-3

共催 阪南市・阪南市尾崎・東島取地域包括支援センター、阪南市西島取・下荘地域包括支援センター  
阪南市介護者支援の会、阪南市キョウハンメイト連絡会  
協力 阪南市立文化センター、阪南市社会福祉協議会、リサイクルブック「つながり」、はんなん手織りの会 新  
ぬくぬくカフェ、くつろぎカフェ(認知症ボランティアグループ スイートビー)

### ③ 活動内容



毎週木曜日の午後1時30分から午後3時まで、1杯100円でコーヒーや紅茶等のドリンクを提供。

男性の認知症当事者や介護者がウェイト役（マスター）を担いながら、カフェ参加者との会話を通じて楽しく交流している。

キッチンでのドリンク手配など、裏方にあたる業務は、ボランティアが週替わりでサポートしている。

活動から1年以上が経過した今も、カフェが笑顔で溢れており、毎週平均60杯前後のドリンクが提供されている。

カフェスペースには図書館に寄付された本が500冊程度設置されており、自由に閲覧が可能。

### ④ 活動を進めていく上での工夫・配慮

#### ・マスターズの思いをカタチにするためのコーディネートを意識

立ち上げに向けた準備の段階から、推進員が何度もマスターズ（マスターたち）と話し合いを行い、マスターズの「こういうものを作りたい」という思いと、達成するための課題について整理することを意識した。

その中で、費用面の課題に直面した時は、助成金の申請（be Orange 認知症まちづくり基金 2018）を推進員が代行した。

また、マスターズから「カフェとともにパンやお菓子も欲しい」という声が上がった時には、市内でパンやお菓子作りを行っている就労支援事業B型事業所に、カフェへの出張販売の依頼を推進員が調整したりするなど、

マスターズの思いをカタチにするためのコーディネートを行うよう意識した。

現在も、毎週カフェの終了後、振り返り会を行い、マスターズで積極的な意見交換が行われている。



## ⑤ 活動に取り組んで見えてきた効果・課題

- ・ 認知症当事者の生きがい活動の場として機能



介護保険のデイサービスや就労支援事業B型事業所などの障がい福祉サービスといった、公的な社会保障サービスとは違った、認知症当事者の生きがいを支援する一つの社会資源として、地域に根づいてきている。

- ・ 活動への協力団体が増え、認知症だけにとらわれない「地域共生型カフェ」へ発展  
難聴の当事者が主体となって活動している市内の手話サークルが、マスターズカフェの活動に影響を受け、カフェの立ち上げを決意。マスターズカフェの姉妹カフェとして「手話カフェ」が、マスターズカフェと同じ場所、違う曜日に定期開催されるようになるなど、様々な形で発展・普及につながっている。

市報にも、大々的に取り上げて頂きました！

## ⑥ 今後の活動展望（期待・予想される結果など）

- ・ 協力団体の輪が広がることで「支えあいの場づくり」のさらなる拡大へ！

協力・協賛する方々の声に今後もアンテナを張りめぐらしながら、さらなる「支えあいの場づくり」を推進したい。

また、それらの活動団体同士が交流出来る機会を企画することでさらなる輪の拡大に寄与し「地域共生社会」の実現につなげたい。



## この活動を通して見えてきたポイント

- 「やりたい」という声を蓄積し、つなぎ合わせることで、協働関係と実現につながる
- 「やりたい」をカタチにするための話し合いを繰り返すことが重要
- 実現に向け課題を整理し、当事者と一緒に一歩ずつ課題解決に取り組むことが大切

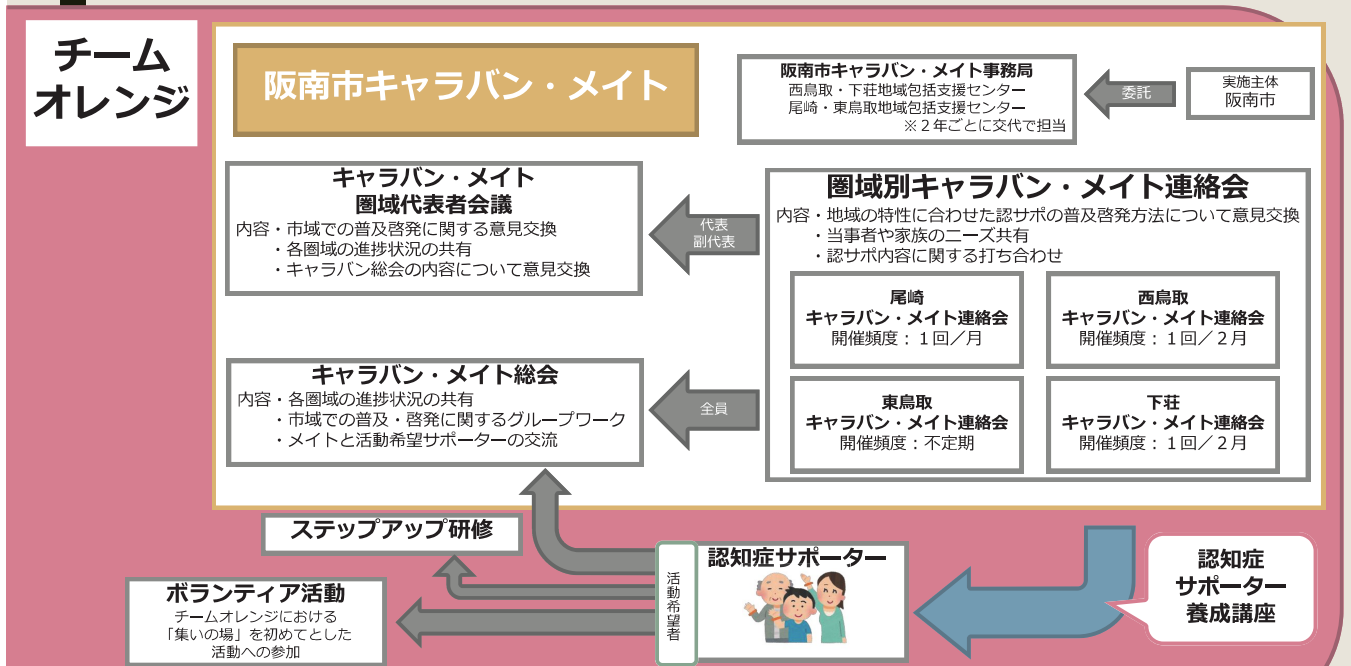
# 阪南市の活動を チームオレンジのイメージで整理すると・・・

2020.1.25作成



# 阪南市キャラバン・メイト

2020.1.25作成



〔泉州圏域〕  
阪南市

## 今後の展開に向けて

- チームオレンジは、数多くの進めていくべき「ポイント」があります。
  - ・活動意欲のある認知症サポーターの確保と育成
  - ・認知症サポーターのスキルアップ
  - ・認知症サポーターの性格や個性等に応じた役割・活躍の場の確保
  - ・認知症の方（以下、「本人」という。）のニーズの把握
  - ・他機関との連携、役割分担
  - ・把握した本人のニーズと認知症サポーターをつなぐ仕組み（本人と認知症サポーターのマッチング）などがあり、それを進めていくタイミングについても考えていかなければなりません。
  
- この冊子では、モデル市町のチームオレンジにつながる取り組みを掲載していますが、モデル市町においても取り組みを進めていく中で苦慮したり、戸惑うこともたくさんあったと思います。その中で工夫や試行錯誤をくり返しながらか、現在に至っているのではないのでしょうか。
  
- 以下にモデル市町のポイントを整理しましたので、今後の事業展開の参考にさせていただければ幸いです。
  - ＜豊能町＞

キャラバン・メイトが認知症カフェの活動の中心となって取り組んでいく機会を作ることで、現在はキャラバン・メイトが主体的に認知症カフェを運営するようになっていきます。また、認知症カフェを広く知ってもらうために出張カフェの実施も進めており、啓発活動にも力を入れています。
  - ＜池田市＞

中学校の福祉体験（中学生が認知症の方と接する機会）という既存の取り組みを活用し、中学校における認知症サポーター養成講座を開催。また、市での取り組みを組織的に行える様、キャラバンメイト連絡会を立ち上げ、認知症サポーター養成講座のみならず、地域の啓発活動につながる認知症見守り声掛け訓練を実施しています。
  - ＜高槻市＞

認知症サポーター養成講座で、「ボランティア活動に関する関心の有無」についてアンケートをとり、ニーズ調査を実施しています。また、認知症サポーターステップアップ講座においては、要件（認知症の人とのコミュニケーションについて演習や実習がある・講座内容の立案に、認知症指導者が関与している・6時間以上の講座とする）を一定決めることで、ステップアップ研修の開催をしやすくしています。



#### <門真市>

「ゆめ伴（とも）プロジェクト」として、本人・家族・地域住民・企業・行政・社会福祉協議会などがつながり、さまざまなプロジェクトを実施しています。また、「本人や家族の日頃の何気ない会話」や「本人の得意なことや興味のあること」を大切に、活動につなげています。

#### <八尾市>

八尾市では、地域の集まり（ふれあい喫茶・高齢者サロンなど）において「認知症の人への接し方がわからない」という声がよくきかれましたが、サポーター養成講座の中に「認知症高齢者声かけ体験」を組み込むなど、認知症の基本的な知識や接し方を体験する機会をつくることで、地域の方へ認知症の理解を深めてきました。また、各地域の団体と相談して講座や勉強会を企画することで、他機関との連携についても構築してきました。

#### <河内長野市>

「認知症の人が住み慣れた地域で暮らし続けるためには、地域のボランティアによる支援が必要」と考え、平成27年度から認知症パートナー養成講座（現在の「ステップアップ研修」）を開催してきました。その中で、「グループホームでの傾聴活動」「認知症カフェ」「カレーパーティ」など、多くの取り組みを行っています。

また、その取り組みを担う認知症パートナーの活動支援にも力を入れており、活動を推進していくための定例会を実施したり、「認知症パートナーから活動報告を具体的に聞いて対応を一緒に考える」といったことを通し、認知症パートナーの対応力向上につなげています。

#### <阪南市>

認知症地域支援推進員が日頃の相談支援を通じて、各機関や認知症の当事者、当事者の家族のニーズを把握してきました。また、当事者を含む関係者同士で話し合いを実施し、「認知症にやさしい図書館」を作り上げていくことを大きなテーマとし、「知る、学ぶ、つながる」の3つのプロジェクトを立ち上げました。その中の「つながる」プロジェクトとして、認知症当事者や介護者の運営するマスターズカフェが誕生しました。また、マスターズカフェでは、何度もマスターと話し合いを行うなど、マスターの思いをカタチにするためのコーディネートは今も続けています。

- この事例集をお読みになっていただく際、『どのような「工夫」や「試行錯誤」があったのか』・『事業を企画する中で参考にできるところはないか』という視点を持って読んでいただければと思います。

そして、読まれた方がなんらかの「ヒント」をつかんでいただき、今後それぞれの市町村のチームオレンジの取り組みに活かしていただけることを願っています。

令和元年度 チームオレンジ等構築モデル事業 ワーキンググループメンバー

豊能町生活福祉部健康増進課

池田市福祉部高齢者政策推進室地域支援課

高槻市健康福祉部福祉相談支援課

門真市保健福祉部高齢福祉課

八尾市地域福祉部高齢介護課

河内長野市市民保健部高齢福祉課

阪南市健康部介護保険課

大阪府福祉部高齢介護室介護支援課

アドバイザー：公益社団法人 認知症の人と家族の会 大阪府支部代表 西川 勝